

第四十 公私一切證書文書變造偽造ノ罪

○佛蘭西

第四百十五條

姓名ノ手署ヲ贋造スル事

書體文體姓名ノ手署ヲ變造スル事

人ノ姓名ヲ詭リ換ル事

簿冊及ヒ公ケノ證書ヲ記シタル後ニ竊ニ書入ヲ

爲ス事

官吏其職ヲ行フニ當リ此等ノ所行ヲ爲シタル時ハ

無期ノ徒刑ニ處セラル可シ



第四百四十六條 官吏其職務ニ管シタル書類ヲ記スルニ當リ契約ヲ爲ス雙方ノ者ノ陳述セシ以外ノ契約ヲ記載シ又ハ偽リノ事ヲ真正ナリト證シ又ハ陳述セサルヲ陳述シタリト爲シテ其書類ノ義意ト模様トヲ贋設シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百四十七條

書類及ヒ姓名ノ手署ヲ贋造變造スル事  
契約書規則書義務ノ證書負債拂濟ノ證書ヲ贋造シ或ハ此等ノ書類ヲ記了セシ後ニ竊ニ書入ヲ爲ス事  
證書ノ章句又ハ本人ノ陳述スル所又ハ其證書ヲ以

テ證ス可キ條件ヲ增加シ又ハ變造スル事

此等ノ罪ヲ犯シテ公正ノ證書又ハ商業及ヒ銀行ノ書類ヲ贋造セシ官吏外ノ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラ  
ル可シ

第四百四十八條

此一節中ニ記列セシ總テノ場合ニ於テ贋造シタル書類ヲ用ヒタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百五十條

第四百四十七條ニ記シタル方法中ノ一ヲ以テ私書ヲ贋造シタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ



第五百五十一條 其贋造シタル書類ヲ用ヒタル者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第五百五十二條 後條ニ記スル種類ノ證券ヲ贋造シタル罪ハ此一節ニ記シタル刑ヲ通シ用フ可カラス

第五百五十九條 [千八百六十三年五月十三日如左改ム] 自カラ公役ヲ免カレ又ハ他人ヲシテ公役ヲ免レシム可キ爲メ内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ノ偽名ヲ用ヒ疾病ノ證券ヲ造ル者ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第六百六十條 [千八百六十三年五月十三日如左改ム] 人

ヲ曲庇シテ其人ノ公役ヲ免レシム可キ爲メ詐テ疾病ノ證券ヲ造リタル内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ贈遺或ハ約束ニ因テ其罪ヲ犯セシ時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此二箇ノ場合ニ於テハ其犯人ノ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ



贈遺或ハ約束ニ因テ公役ヲ免レントスル罪ヲ犯セ  
シ者ハ偽リノ疾病證券ヲ渡シタル内科外科ノ醫官  
及ヒ下等醫士ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第六十一條 千八百六十三年五月十三日如左改ム  
人ニ對シ政府又ハ平民ヲシテ好意愛憐ノ情ヲ起サ  
シメ且其人ノ爲メ職務信據救助ヲ得セシム可キ爲  
メ官吏ノ偽名ヲ用ヒ保行ノ證券窮乏ノ證券又ハ其  
他ノ模様ノ證券ヲ造リタル者ハ六月ヨリ少カラス  
二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
又左ニ記スル者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カ

ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第一 元來真正ナル證券ト雖モ其證券上ニ記セシ

以外ノ人ニ用フ可キ爲メ之ヲ變造シタル者

第二 其贋造及ヒ變造ノ證券ヲ用ヒタル者

若シ平民ノ名ヲ詭リ其證券ヲ造リシ時ハ其贋造ヲ  
爲シタル者及ヒ其證券ヲ用ヒタル者十五日ヨリ少  
カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ  
ル可シ

第六十二條 此一節ニ記載セシ以外ノ證券ヲ贋造  
シテ他人又ハ政府ノ會計局ニ對シ害ヲ生スルコト



ル時ハ其犯人其罪ノ次第ニ因リ此款ノ第三節及ヒ  
第四節ノ規則ニ循ヒ刑ニ處セラル可シ

第六十三條 贋造或ハ變造ノ貨幣、手形、國璽、印紙、鑿

記、記號、書類ヲ用ヒシ者若シ其贋造或ハ變造タルコ

ト知ラサル時ハ前ニ記シタル刑ニ處ス可カラス

第六十四條 一千八百六十三年五月十三日如左改ム

前條ニ記シタル犯人ハ百フランクヨリ少カラス三

千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケシム

可シ但シ其罰金ハ贋造或ハ變造ニ因リ首謀、附從又

ハ贋造變造シタル物ヲ用ヒタル者ノ所得トナシ或

ハ所得ト爲サントシタル其曲利ノ高ノ四分ノ一迄

ニ至ラシムルヲ得可シ

○白耳義

第九十四條 凡ソ内外官吏其職務ノ幹事タル者ニ

シテ署名ヲ偽ル者

署名若クハ文書ヲ變造スル者

無實ノ人名ヲ署スル者

文案簿籍ニ後ヨリ加筆填字スル者

以上ハ皆十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ



第九十五條 凡ソ官吏其官省ノ文案ヲ書シ其体面  
 模様ヲ換ヘ雙方申出ノ契約ヲ違ヘ或ハ虚ヲ實トス  
 ル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ  
 第九十六條 凡ソ公私商賈ノ諸文書ニ偽名ヲ署シ  
 或ハ書体ヲ變造若クハ偽造シ或ハ諸契約若クハ罷  
 職ノ事ヲ書シ或ハ後ヨリ之ヲ填シ無實ノ事情ヲ本  
 條ニ加ヘ或ハ之ヲ變造スル等ノ常人犯ハ皆監役ニ  
 處ス可シ

第九十七條 凡ソ本套ニ掲載セル諸條ノ偽造券及  
 ヒ偽造書ヲ用フル者ハ皆ナ其偽造者ト同罪

第二百三條 凡ソ公役若クハ公務ヲ免レ或ハ免レシ  
 メント欲シ醫ノ姓名ヲ用ヒ或ハ自ラ詐テ醫ト稱シ  
 疾病若クハ廢疾者ノ證券ヲ偽造スル者ハ八日ヨリ  
 一年マテノ獄ニ處ス可シ

第二百四條 凡ソ公役公務ヲ免レシムル爲メ癡疾疾  
 病等ノ無實證券ヲ與フル醫師ハ八日ヨリ二年マテ  
 ノ獄ニ處ス可シ

若シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ一年  
 ヨリ五年マテノ獄ニ處シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ  
 處スルヲアリ



第二百五條

凡ソ人ニ公私賑貸官職扶助等ヲ得セシメント欲シ偽テ其善行ヲ稱シ或ハ其貧窮ヲ唱ヘ官員ノ姓名ヲ以テ無實ノ證券ヲ與フル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

若シ常人ノ姓名ヲ以テ證券ヲ與フル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百六條

凡ソ官員ノ姓名ヲ用ヒテ證券ヲ造リ公私ノ利益ヲ害スルニ充ツル者ハ六月ヨリ五年マテノ獄ニ處シ第三十三條ノ奪權ニ處ス可シ  
常人ノ姓名ヲ用テ證券ヲ造ル者ハ二月ヨリ一年マ

テノ右同罪ニ處ス可シ

第二百七條

凡ソ證券ヲ變造スル者及ヒ第二百三條二百四條二百五條二百六條ニ掲載スル偽證券ヲ用フル者ハ各條ニ依テ論シ其本刑ニ處ス可シ

第二百八條

凡ソ内外官吏其職務上ノ事ニ關シ偽證券ヲ與ヘ或ハ變造シ偽證券ヲ用フル者ハ監役ニ處ス可シ

第二百九條

凡ソ官ノ證券ヲ得セシムル爲メ實ナキノ事ヲ詐リ證スル者ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ



若シ詐リ證シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ同罪六月ヨリ三年マテトシ且第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百十條 凡ソ旅亭等ノ主人名簿上ニ客ノ姓名ヲ變シ若クハ無實ノ姓名ヲ書シ或ハ其簿籍ヲ變造スル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ

第二百十三條 凡ソ偽造變造ノ貨幣證券割符紙幣印章印紙極印記號電報偽書等ヲ用フルモ他人ニ害ヲ及スノ心ナキ者ハ無罪

第二百十四條 凡ソ以上四章中別ニ罰金ヲ記セサル各條犯罪ハ皆二十六「フランク」ヨリ二千「フランク」マテノ罰金ヲ命ス可シ

○獨逸

第二百六十七條 詐偽ヲ爲サントスルノ目的ニテ獨

乙國或ハ外國ヲ論セス公證ノ文書公證人代書人門監等ニテ認

メル文書ヲ公証公然ト云フ或ハ自己ノ權利ヲ證スル私證ノ文書

ヲ變造シ又ハ贋造シ又人ヲ誘惑スル爲メ其變造又

贋造シタル文書ヲ使用シタル者ハ文書ヲ變造シタ

ル罪トナシ禁獄ニ處ス可シ



第二百六十八條

己レニ利ヲ得ン爲メ又ハ他人ニ利ヲ得セシメンカ爲メ文書ヲ變造シ因テ人ニ害ヲ加ヘシメタルキノ處決ノ刑ハ如左

第一 若シ私證ノ文書ヲ變造シタルキハ五年ヨリ

長カラサル徒刑及ヒ千「ター」レルニ至ル罰金或ハ其兩刑ノ内一二循ヒ只徒刑ニ處ス可シ

第二 若シ公證ノ文書ヲ變造シタルキハ十年ヨリ

長カラサル徒刑及ヒ五十「ター」レルヨリ二千「ター」レルニ至ル罰金或ハ其兩刑ノ内初ノ一二循ヒ處スヘシ

若シ酌量輕減スルキ若シ私證ノ文書ヲ變造シタル時ハ一週日ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ若シ公證ノ文書ヲ變造シタルキハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ仍ホ千「ター」レルニ至ル罰金ニ處スヘシ

第二百六十九條

本人ノ承諾ナク或ハ其意ニ反シテ

印章アル白紙白紙トハ紙上ニ姓名ヲ記シテ余白ヲ殘シ用事ノ部度ニ書キ入ル爲ニ設ケタルモノナル云ニ書キ入レテナシ證書ト同様ニ爲シタル者ハ文書ヲ變造シタルト同シク論スヘシ

第二百七十條

變造贋造タル事ヲ知リテ人ヲ誘惑ス

ルノ目的ニテ其文書ヲ使用シタル者ハ文書ヲ變造



シタルト同シク論ス可シ

第二百七十一條 申立書又ハ公證書又ハ權利ノ証ナ

キ時又如何ナル方法ヲ以テスルモ其事ノアルベカラサル時又コレヲ爲スヘカラサル人ヨリ是等ノ事ノ出テタル時又其証書中ニ記名シタル人ニ非ラズ別人ヨリ出テタル時其申立書又ハ證書又權利ノ証等ヲ官ノ簿冊等ニ實トシテ登記シタル者ハ六月ヨリ長カラサル禁獄又百「ター」レル「ヨリ」多カラサル罰金ニ處ス可シ

第二百七十二條 自ラ利ヲ得ル爲メ又ハ他人ニ利ヲ

得セシメン爲メノ目的ニテ上ニ記シタル事ヲ犯シ又之レニ因テ人ニ害ヲ加ヘタル者ハ十年ヨリ長カラサル徒刑又ハ五十「ター」レル「ヨリ」千「ター」レル「ニ」至ル罰金ニ處シ又ハ其兩刑ノ内一ニ循ヒ只徒刑ニ處スルヲ得可シ

若シ酌量輕減アルキハ禁獄又ハ千「ター」レル「ヨリ」多カラサル罰金ニ處スヘシ

第二百七十三條 人ヲ誘惑スル目的ニテ故ラニ二百

七十一條ニ記シタル種類ノ申立ヲナシタルキハ其條ニ循ヒ處決シ若シ已レノ爲メ又ハ他人ノ爲メヲ



論セス利ヲ得ルノ目的ニテ之レヲ犯シタルハ二百七十二條ノ刑ニ處ス可シ

第二百七十七條

免許醫師、醫士

「チフヒール」ナルデサノテ

リ一等下ル者ニテ同ト詐稱シ或ハ免許ナク醫師、醫士ノ名義ヲ用ヒテ自己ノ健康或ハ他人ノ健康ヲ證スル爲メ健康狀ヲ渡シタル者又ハ平常渡サレタル

健康狀ヲ贋造シテ官署及ヒ健康請合會社

死シタル

歐洲ニテ

後子孫ノ爲メ凡幾千萬兩ヲ遣サントスレハ健康請合會社ニ年々金ヲ納メシテ乞フ其時會社ニテ醫師ヨリ渡シタル健康狀ヲ一覽シ其強弱ヲ計リ一年毎ニ何百兩ツハナ其會社ニ収メシムルアリテ誘惑シタル者ハ一年ヨリ長カラサル入牢ニ處ス可シ

シ

第二百七十八條

免許ノ醫師又ハ醫士人ノ健康ナリ

ヲ知リテ故ラニ官署及ヒ健康請合會社ニ出スヘキ

健康狀ニ虛偽ノ事ヲ認メタル者ハ一月ヨリ短カラ

ス二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處スヘシ

第二百七十九條

自己ノ健康又ハ他人ノ健康ニ付官

署又ハ健康請合會社ヲ誘惑セシムル爲メ第二百七

十七條及ヒ第二百七十八條ニ擧ケタル種類ノ証書

健康狀ヲ使用シタルモノハ一年ヨリ長カラザル禁

獄ニ處ス可シ



第二百八十條 第二百六十七條 二百七十四條 二百七十五條 二百七十七條 ヨリ 二百七十九條ニ舉ケタル條ハ禁獄ノ刑ノ外公權ヲ剝奪スルコトヲ得可シ

○埃及

第一百八十四條 官吏其職務ヲ行フニ方リ証書報告書調書及ヒ其他ノ書類或ハ簿冊目錄等ニ猥リニ書入ヲ爲シ又ハ文面鈐印姓名ノ手署ヲ變造シ又ハ人ノ姓名ヲ偽リ記シテ贋造ノ罪ヲ犯シタル時ハ有期ノ徒刑又ハ繫獄ノ刑ニ處セララル可シ但シ其刑期ハ決

シテ十年以下タルコトナカル可シ

第一百八十五條 前ニ記シタル贋造ノ罪ヲ犯セシ者ノ官吏ニ非サル時ハ七年ニ過キサル時間徒刑又ハ繫獄ノ刑ニ處セララル可シ

第一百八十六條 裁判所又ハ會議又ハ其他ノ官局ニ於テ職務ヲ行フ官吏其職掌上ノ證書ヲ記スルニ方リ管係人ノ申述フル所ヲ變シテ其證書ニ記シ或ハ管係人ノ偽ナリト述ベタル事ヲ眞實ナリト記シ或ハ管係人ノ自認セサル事ヲ自認シタリト記シ事實又ハ景狀ヲ偽テ變シタル時ハ有期ノ徒刑又ハ繫獄ノ



刑ニ處セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以下タル可カラヌ

第百八十七條 前二條ニ記シタル贋造ノ書類ヲ其贋造タルヲ知り故ラニ用ヒン者ハ有期ノ徒刑又ハ繫獄ノ刑ニ處セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ七年ニ過ク可カラヌ

第百八十八條 何人ニ限ラス前ニ記セシ方法中ノ一ヲ用ヒ私書ヲ贋造シタル者又ハ故ラニ贋造ノ私書ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十三條 何人ニ限ラス自カラ公役ヲ免ル、爲メ又ハ他人ノ公役ヲ免レシムル爲メ内科又ハ外科ノ醫師ノ姓名ヲ偽リ用ヒテ疾病ノ証書ヲ贋造シ又ハ贋造セシメタル者ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十四條 内科又ハ外科ノ醫師本人ノ乞ニ從ヒ又ハ其情ヲ憐ミ公役ヲ免レシム可キ疾病ノ証書ヲ偽リ造リシ時ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ○若シ其醫師約束或ハ贈物ノ爲メ其心ヲ動かサレシ時ハ納賄ノ刑



ニ處セラレ又其贈賄者ハ其罪ニ應スル刑ニ處セラ  
ル可シ

第九十五條

又裁判所ニ差出ス可キ證書

疾病事故  
等ノ證書

ヲ云テ偽リ造リシ時ハ亦前一條ニ記スル刑ヲ適用  
ス可シ

第九十六條

贋造或ハ變造ノ璽印、鈐印、鑿記、証書ヲ

用ヒシ者其贋造又ハ變造タルヲ知ラサルノ證アル  
時ハ其刑ヲ適用ス可カラス

○普魯士〔千八百五十一年四月  
十八日ノ刑法〕

第二百四十七條

凡ソ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ

營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ証書ヲ

變造シ若クハ偽造シ而シテ詐偽ノ目的ヲ遂ゲンカ爲

メニ其証書ヲ取用シタル者ハ偽造証書ノ罪犯ナリ  
トス

凡ソ證書ト了解ス可キモノハ契約、指令、義務及免許

或ハ一般ニ權利若クハ權利關係ノ確證ノ爲メ大切  
ナル書類ヲ云フ

第二百四十八條

凡ソ偽造証書ノ罪犯ト同視ス可キ

モノハ自己又ハ他人ノ爲メニ利益ヲ營ミ或ハ他人



ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ某人ノ姓名ヲ手署シタル紙上ニ其許諾ナキニ書載シ而シテ如此ノ證書ヲ取用スルキニ在リトス

第二百四十九條 凡ソ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ偽造シ若クハ偽造シタル証書ナルヲ了知シテ之ヲ取用スル者ハ偽造者ト同視ス可キナリ

第二百五十條 凡ソ自己又ハ他人ノ爲メニ利益ヲ營ムノ目的ヨリシテ權利及ヒ權利ノ關係上ニ於テ大切ナル商議或ハ告知及ヒ事實ノ無根若クハ他ノ方

法上若クハ他人ノ記載若クハ作爲ニ出テシモノヲ公然ノ證書帳簿手帳等ノ中ニ記載シ若シク現在ノモノナリトシテ確證ト爲スノ所行ニ涉リタル者ハ十年以内ノ徒刑ニ處セラレ且ツ一百「ターレ」ヨリ少カラス二千「ターレ」ヨリ多カラサル罰金ヲ科セララル可シ

上項ト同般ノ刑ニ處決セララル可キモノハ某人ニ害ヲ加ヘシカ爲メニ偽造セン證書タルヲ了知シテ之ヲ取用スル者ナル可シ



○薩克索月千八百六十八年十月一日改正ノ刑法

第三百十一條 凡ソ何様タルヲ論セス法ニ背キタル  
目的ノ爲メニ偽作シタル他人ノ姓名若クハ已レノ  
關ス可キ權理ナキニ他人ノ姓名ヲ題シテ證書ヲ製  
シ或ハ真正ノ證書ヲ贋造シ或ハ滅却シ又ハ不可用  
物ト爲シ或ハ他人ノ姓名ヲ手署シタル紙白ヲ恣ヒ  
マヽニ塗抹シ或ハ商賣帳簿ニ不正ナル損害ヲ與フ  
ル者若シ右等ノ詐偽方法ヲ實施シ之ヲ既行若クハ  
既行未成ノ重罪ニ照準シ較ヤ重キ重罪ノ刑ヲ擬セ  
ラルヘキ罪犯ニ涉ラサリシキハ偽造罪犯ニ依テ論

シ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ二年ヨリ多カラ  
サル工役場ノ刑ニ處セラル可シ  
公然ノ証書若クハ公然ノ證書ヲ記載ス可キ爲メ備  
ヘシ紙ヲ更換スルヲニ就テ上項ニ記載セシ種類ノ  
所行ヲ犯スニ涉リシキハ其刑ヲ増加シテ三年ヨリ  
多カラサル工役場ノ刑ニ處セラル可シ

○埃塞 月千八百四十九年九月十七日ノ刑法

三二八 第三百八十五條 凡ソ他人ニ損害ヲ加ヘンガ爲メ自  
己又ハ某人ノ爲メニ不正ノ利益ヲ營マンカ爲メニ



書類若クハ証書ヲ贋造シ又ハ偽リノ署名若クハ偽  
リノ印章ヲ載セ或ハ偽造書類ヲ製スルニ當テ真正  
ノ印章ヲ取用シ又ハ其他ノ偽造証書ヲ故ラニ取用  
シ或ハ文辭綴字數字句讀等ヲ變休シ附加シ抹却シ  
或ハ其他ノ方法上ニ於テ真正ノ書類若クハ証書ヲ  
不具不整ノモノト爲シ而ノ如此ノ偽造若クハ變造  
ノ書類及ヒ証書ヲ取用シタル者ハ偽造証書ノ罪犯  
ナリトス

第三百八十六條 本條ハ偽造証書ニ就テノ刑ヲ確定  
セルモノナリ

第三百八十七條 又前條ニ記載シタル制定ニ依テ擬  
決セラル可キモノハ甲人ニ損害ヲ加ヘ或ハ自己又  
ハ乙人ノ爲メニ不正ナル利益ヲ營マンカ爲メ偽造  
証書若クハ偽造書類(但シ犯者自カラ作爲セルモノ  
ニハ非レモ其贋偽ニ依テ作爲シタルモノ)ナルヲナ  
了然辨知シテ取用シタル者ナリトス  
上項ト同刑ニ處決セラル可キ者ハ某人ニ損害ヲ加  
ヘンカ爲メニ法ニ背キ有用ノ證書ヲ滅却シ或ハ壓  
害セルモノナル可シ



○丟靈厄斯的丁千八百四十九年ノ刑法

第二百五十二條 凡ソ偽造証書ニ官署ノ名ヲ題シ或ハ真正ナル公證書若クハ公然ノ確証ト爲ル可キ私証書ヲ贋造シ若クハ妄ニ滅却シ若クハ不可用物ト爲シ若クハ隱藏シ或ハ偽造若クハ變造シタル公証書ヲ取用スル者若シ如此ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ爲メニ利益ヲ營マンカ爲メ或ハ某人ニ財産ノ損害若クハ其他ノ損害ヲ加ヘンカ爲メニ右等ノ所行ヲ爲シタル者ハ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄又ハ二年ヨリ多カラサル工役場ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十三條及ヒ第二百五十四條 此兩條ハ第二

百五十二條中ニ確定セシ偽造証書ノ罪犯ノ重キ場

合ニ就テ其刑ノ制定ヲ論シタルモノナリ

第二百五十五條 凡ソ自己又ハ某人ノ爲メニ利益ヲ

營ミ或ハ何事ヲ論セス他人ニ損害ヲ加フルノ目的

ニ於テ已レノ關預ス可キ權理ナキ私證書ニ他人ノ

姓名ヲ題シテ之ヲ作爲シ或ハ真正ナル私證書ヲ贋

造シ滅却シ不可用物ト爲シ又ハ隱藏シ或ハ偽造若

クハ變造セシ私證書タルヲ知リナカラ之ヲ取用

スル者ハ六ヶ月ヨリ多カラサル禁獄或ハ一年ヨリ



多カラサル工役場ノ刑ニ處セラル可シ

○痾爾典不爾厄 千八百五十八年七月三日ノ刑法

第二百三十條 第二百三十一條 第二百三十二條 第三百三十五條 此ノ四條ハ文辭上全ク普國刑法書ノ第二百四十七條 第二百四十八條 第二百四十九條 及ヒ第二百五十二條ト同一ナルモノナリ

○昂不爾厄 千八百六十九年四月三十日ノ刑法

第七條 凡ソ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營ミ或

ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ偽造ノ印紙、公證書、圖票、會籤ノ番號及ヒ印章詐偽ノ捺印、公證ト爲ル記號ヲ備ヘシ偽造ノ尺度若クハ量衡ヲ模製シ又ハ真正ナルモノヲ贋造スル者或ハ又其他變造若クハ偽造セシモノヲ右ノ如キ目的ヲ以テ取用スル者ハ八年ヨリ多カラサル徒刑ニ有期ノ民權剝奪ヲ加ヘ以テ處セラル可シ但シ其輕キ場合ニ在テハ禁獄ノ刑ニ處セラル

第九條 凡ソ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ於テ官署、官吏若ク



ハ公證人ヲ誑誘シテ無根事實ヲ確證ト爲ス者或ハ又之ト同シキ目的ニ於テ贋偽ノ確證タルヲ了知シテ之ヲ取用スル者ハ二年ヨリ多カラサル羈絆ノ刑ニ處セラル可シ

上項ノ如キ目的ナシニ官署官吏或ハ公證人ヲ誑誘シテ了然辨知セシ無根事實ヲ確證ト爲ス者ハ六ヶ月以內ノ禁獄或ハ二百「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ヲ科セラル可シ

第九十二條 凡ソ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營

ミ或ハ乙人ニ財産ノ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ私

證書ヲ贋造變造シ且ツ之ヲ取用スル者或ハ之ト同シキ目的ニ於テ贋造若クハ變造セシ證書タルヲ了知シ之ヲ取用スル者ハ左ノ如ク處決セラル可シ

第一款 八年以內ノ徒刑ニ處セラル可キモノハ偽造罪犯ノ金高五十「ターレル」以上ニシテ且ツ左ノ所行ニ涉リタルキニ在リ即チ

(イ)債主ニ對シ借用證書ヲ贋造シ又ハ變造シ或ハ株金證券並ニ之レニ代用ス可キ證券又ハ請取書又ハ右ノ證券ニ附属シタル利子又ハ書換證書ヲ贋偽セシキ



(ロ)爲替手形金錢引替證券、金錢渡方ノ添書郵船  
荷物送り狀、商賣帳簿又ハ遺囑書

第二款 二ヶ月ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル

羈絆ノ刑ニ處セラル可キモノハ即チ

(イ)若シ第一款中ノ(イ)ヨリ(ハ)ニ至ルマテ掲載シ

タル一箇ノ情狀判然發露シテ贋偽罪犯ノ金

高五十「ター」レル以上ニ至ラサルキ

(ロ)若シ右一箇ノ情狀顯然發露スルヲナクメ贋

偽罪犯ノ金高五十「ター」レル以上ニ超ハタル

キ

第三款 總テ前款ニ掲ケタル外他ノ場合ニ在テハ

禁獄ノ刑或ハ三百「ター」レルヨリ多カラサル罰金

ヲ科セラル可シ

凡ソ罪ヲ擬律スルニ當テハ必ス釀成セシ損害若ク

ハ畧取セシ利益ニ能ク注意ス可キモノナリトス

凡ソ偽造罪犯ト同視スヘキモノハ自己若クハ甲人

ノ爲メニ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目

的ニ於テ某人ノ姓名ヲ手署シタル紙上ヲ其許諾ヲ

受ケスシテ塗抹シ而シテ此ノ如キ証書ヲ實用スルモ

ノナリトス



第九十三條 前條第一款中ノ「イ」「ロ」中ニ掲ケタル私証書ヲ偽造スルノ目的ヲ以テ極印若クハ其他須要ノ物品ヲ製造調理シ又ハ購求シタル者ハ假令其物具ヲ未ダ取用セサルモ禁獄ノ刑ニ處セラル可シトス

○巴威也拉 一千八百六十一年十一月十日ノ刑法

第七十六條 法ニ背キシ偽計ノ目的ニ依リ公証書ヲ更製シ或ハ己レノ關預ス可キ權理ナクシテ公然ノ確徵ヲ以テ証書ヲ作爲スル者ハ公証書偽造ノ罪

犯ナリトス

右ト同シキ目的ヲ以テ偽造セシ証書タルヲ了知シテ之レヲ實用スル者ハ第七十六條〔公然ノ金錢引替証書ヲ偽造シ若クハ其偽造タルヲ了知シテ之レヲ實用スル〕ヲ除クノ外ハ偽造罪犯者ト同般ノ刑ニ處セラル可シ

第七十七條 凡ソ公証書ト見做スヘキモノハ〔第七十六條〕

第一款 國政事務ニ關シ或ハ權利若クハ權利關係上ノ確証ニ於テ大切ナル國王及宰相ノ作爲セシ



証書

第二款 政府及ヒ政府ノ官吏或ハ其他公任ノ吏員

若クハ公立ノ民署ニ於テ修製シ若クハ整備シ若

クハ確信ニ備ヘシ官務上ノ性質ヲ有スル証書又

ハ其官務上ノ証書ニ算入ス可キ諸種ノ証書

第三百十六條 罰金ヲ連帶スル禁獄ノ二ヶ月以上ニ

處刑ス可キ詐欺ノ罪犯ハ左ノ所行ヲ犯シタルキニ

在リトス

第一第二第三ハ此ニ之ヲ畧ス

第四 公私ノ證書ヲ偽造スルノ所行ヲ爲スルキ

第三百十七條 第三百十六條中第四款ニ云ヒシ如キ

私証書トシテ了得ス可キモノハ公証書ニ算入ス可

ラサルモノニメ人民ノ修製セシ權利若クハ權利關

係上ノ確証ニ就テ最モ貴重ナル証書ヲ指シテ云フ

第三百十八條 私証書ノ偽造罪犯ハ左ノ所行ニ涉リ

タルキナリトス

第一 私証書ヲ偽造シテ某人ノ之ヲ筆シ若クハ某

姓名ヲ手署セン如ク爲シタルキ

第二 前ニ述ヘシ種類ノ真正ナル証書ヲ已レノ關

預スヘキ權ナクシテ更製シタルキ



偽造罪犯ト同視スヘキモノハ偽造ノ証書タルヲ了知シテ之ヲ取用スルヲナリトス

○不來梅 千八百六十八年ノ草案

第四百二十九條 自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營ミ若クハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ公証書若クハ私証書ヲ偽造シ又ハ變造シ且ツ不法ナル詐欺ノ目的ヲ以テ右ノ如ク偽造シ又ハ變造シタル証書ヲ取用スル者ハ偽造証書ノ罪犯ナリトス  
公証書ト見做スヘキ書類ハ官署官吏若クハ其他ノ

公任ヲ擔當セル吏員等ノ整備修製シ又ハ確證ト爲シタルモノヲ指シテ云フ

私証書ト見做ス可キ書類ハ權利及ヒ義務若クハ其行止ノ爲メ最モ貴重ナル書類ヲ除クノ外總テ私民ノ修製シ又ハ其姓名ヲ手署シタル私ノ書類ヲ指シテ云フ

第四百三十條 凡ソ偽造罪犯者ト同視スヘキモノハ左ノ如シ

第一款 自己又ハ甲人ノ爲メニ財産ノ利益ヲ營ミ或ハ乙人ニ損害ヲ加フルノ目的ニ依テ公證タル



確徴ヲ備ヘシ紙面若クハ某人ノ印ヲ捺シタル紙面ニ偽書シ而メ法ニ背ケル目的ヲ以テ右ノ如ク偽書セシ公證書ヲ取用スル者

第二款 前ト同般ノ目的ヲ以テ私民姓名ヲ手署シタル紙面ニ偽書シ因テ之ヲ私證書ト爲シ而メ不法ナル目的ノ爲メニ其證書ヲ取用スル者

第三款 或ハ偽造シ或ハ變造シ或ハ詐欺ノ方法ヲ以テ修製シタル公私ノ證書タルヲ了知シテ自己又ハ甲人ノ爲メニ利益ヲ營ミ若クハ乙人ニ損害ヲ加フルノ故意ニ出テタル詐欺ノ目的ニ依リ

其證書ヲ取用スル者

○墾地利千八百六十七年ノ草案

第百六十八條 凡ソ公私ノ證書ヲ

- 第一 贋造シタル者
- 第二 虚捏セシ條件ヲ以テ之ヲ修製セシ者
- 第三 真正ナル證書ノ條件又ハ必要ナル記號ヲ變換シテ真正ノ證書ヲ變造ノモノト爲スヲ企テタル者

第四 右ノ如キ贋偽ノモノタルヲ了知シテ之ヲ



取用スル者

右ノ罪ヲ犯セシ者ハ偽造證書ノ輕罪ナリトス

第六十九條 偽造證書ノ罪犯ト見做ス可キモノハ

第一 既ニ修整セシ證書中ニ他ノ手署姓名ヲ浪リ

ニ附加スルヲ

第二 止タ他人ノ手署姓名ノミヲ整備セシ紙面ニ

載ス可キ爲メ定メタル條件ヲ書セスシテ他ノ條

件ヲ書スルヲ

第三 他人ノ姓名ヲ手署シタル證書若クハ他人ノ

所有ナル物品ノ記號又ハ職業家ノ符號(板師ノ記

章番號圖號)製造場ノ標號及ヒ物品ノ記號ヲ贋造スルヲ

○丟列支 千八百六十六年ノ草案

第八十四條 不法ナル故意ヲ以テ所有主ノ固有物ニ

非ル公証書ヲ偽造シ或ハ真正ナル公証書或ハ公証

ト爲スヘキ私証書ヲ贋造スル者ハ公証書ヲ偽造ス

ルノ罪犯ナリトス

此重罪ト同視スヘキモノハ某人ノ權利ヲ害スルノ

故意ニ出テ偽造証書タルヲ了知シテ之ヲ取用ス



ル者ナリトス

第百八十五條 凡ソ詐欺罪犯若シ左ノ所行ニ依テ犯シタルニ涉ルキハ詐欺重罪犯ト爲シ而メ其損害五百「ター」レル「若クハ以下ノ總計ナルニ於テハ五年ヨリ多カラサル徒刑並ニ工役場ノ刑或ハ二千「フラン」ク以内ノ罰金ヲ連帶セル禁獄ノ刑ニ處セラル可シ

第二款 私証書ヲ偽造シ滅却シ不可用物ト爲シ障害シ窃收スル「或ハ第百八十九條第四款ノ場合

義務ヲ損害スル爲メニ偽ツテ廢棄ヲ爲ス者ハ五年ヨリ多カラサル禁獄或ハ工役場ノ刑ヲ以テ處決セラヲ除クノ外右ノ如キ偽証書タル「了知

シテ之ヲ取用スル「或ハ他人ノ姓名ヲ手署シタル紙面ヲ其委任サレシ目的ヨリ移シテ他ノ目的ニ使用スル」

第百八十六條 第百八十五條中第二款ノ趣意ニ基キタル私証書トシテ認得ス可キモノハ私民ノ修製ニシテ官吏ノ調印ヲ爲サ「ル証書或ハ官吏ノ保護中ニ在ル証書且ツ權利及ヒ權利對稱ノ爲メ最モ必要ナル証書等是レナリ

○加利堡爾尼







遺書

囑書

遺書附帖

歲給狀

錢單

契約書

銀鋪券

銀鋪幣

驛遞約券

サレハ交換者ナリ許

案スルニ下ニ銀鋪幣ト一物ニ名ニシテ皆金銀ト相觸通スル者アリ

案スルニ是亦銀鋪幣ナリ然レモ之ヲ金ニ交換スルヲ銀鋪幣アツテ期限至ラサ

符券

案スルニ金ヲ銀行ニ受取ル等ノ時ニ用ル所ノ証券ナリ

會單

案スルニ大抵符券ニ同シ

兌換狀

約定書

案スルニ是亦合約約束書ノ類ナリ

還債券

錢幣物件ノ還債券

金銀物件ノ收單

路引

委任代理狀

會社商會ノ本金ヨリ生スル股分權利利子ノ憑書



查數吏ノ保狀取金ヲ會計事務局ニ受  
郡ノ令狀保狀請求狀案スルニ是レハ物品若クハ什具若  
命ハ文書ヲ受取セシテ其  
命令保憑請求スルノ書ナリ

錢幣物件ノ清單休責單收單案スルニ休責狀トハ  
其錢幣物件ヲ受得シ  
ナルヲテ證書シテ復々債者ヲ責メ  
サルノ謂ナリ此三單大低相同シ

負債計算訴訟申請要求及ヒ動産實産一切ノ物件  
ニ關スル清單休責單賠償還單

錢幣ノ遞與狀若クハ固保狀案スルニ固保狀トハ  
其必スル之ヲ遞與セシ  
ルヲ固保ス  
ルノ狀ナリ

本金ノ股分物品什具及ヒ其他一切ノ資産ノ憑書

案スルニ其錯違アテカ  
ルヲ証スルノ書ナリ

錢幣ヲ收領シ股分ノ歲給ノ憑書ヲ授受シ若クハ  
各種ノ物品什具土地家屋及ヒ凡百ノ動實産ヲ准

許貸假發配遞與賣却スルノ權ヲ付スル代理狀  
兌換狀還債券會單令狀資本證券囑托書資本證券

與シタル約束手書還債券金銀物品ノ收納書及ヒ背  
簽

第四百七十一條單凡ソ人ヲ欺瞞セント企欲シテ原簿

案ズルニ審院ノ登記ヲ伴製偽作改竄シ若クハ上  
原簿ニ限ラズ  
條ニ列記セル原簿復命書ト看做スヘキ文書ヲ伴製



偽作改竄スル者ハ並ニ偽作罪トナス

第四百七十三條 偽作罪ハ一年以上十四年以下ノ禁

固ヲ科ス

○印度

第四百六十三條 公同又ハ一人ニ損害ヲ被ラスルカ

或ハ索求又ハ所有權ヲ維持シ或ハ人ヲシテ財物ヲ  
渡サシメ或ハ明ト黙トヲ問ハス契約ヲ結フノ意ヲ  
以テ或ハ詐欺ヲ行ヒ又ハ詐欺ヲ行レシムルノ意ヲ  
以テ偽憑書又ハ偽ナル憑書ノ一部分ヲ造ル者之ヲ

偽造ヲ行フト云

第四百六十四條 第一不正ニ或ハ詐偽ノ心ヲ以テ已

レ自ラ其人又ハ其人ノ權ヲ以テ作り又ハ手署シ又  
ハ捺印シ又ハ成スニ非サルヲ知リ或ハ其時ニ於テ  
作り又ハ手署シ又ハ捺印シ又ハ成シタルニ非サル  
ヲ知リ人ヲシテ憑書又ハ其部分ヲ某人又ハ某人ノ  
權ヲ以テ或ハ其時ニ於テ作り又ハ手署シ又ハ捺印  
シ又ハ成シタルモノト信セシムルヲ圖リ憑書又ハ  
其一部分ヲ作り之ニ捺印シ之ニ手署シ又ハ之ヲ成  
ス者第二法律上ノ權ナク塗抹等ノ事ヲナシ以テ自



已又ハ憑書ヲ改更スル時己ニ死シタルト未タ存スルトヲ問ハズ他人之ヲ作り又ハ之ヲ成シタル後不正ニ又ハ詐欺ノ心ヲ以テ其緊要ノ部分ヲ改更スル者第三喪心又ハ酩酊又ハ欺カルノ故ニ憑書ニ載スル所又ハ之ヲ改更スル專ノ性質ヲ知ラサルヲ知テ人ヲシテ憑書ニ捺印シ之ニ手署シ又ハ之ヲ作り又ハ之ヲ成シ又ハ之ヲ改更セシムル者之ヲ偽憑書ヲ造ルト云

説明一人己カ名ヲ手署スルモ偽造トナスヲ得ヘシ説明二其憑書ヲ實有スル人ノ作ル所又ハ之ヲ生存中人ノ作ル所ト信セシムルノ意ヲ以テ假作人名又ハ己ニ死シタル人ノ名ヲ以テ偽憑書ヲ作ルモ偽造トナスヲ得ベシ

第四百六十五條 偽造罪ヲ犯ス者ハ二年ニ及フ各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰スベシ

第四百六十六條 裁判所ノ記録手續トナルベキ憑書又ハ出産、洗禮、婚姻、及ヒ埋葬ノ記録又ハ官吏其職ヲ以テ管守スル記録又ハ官吏其職ヲ以テ作ルベキ憑書又ハ訴訟ヲ申立テ或ハ之ニ答辦シ或ハ之ニ就テ



其他ノ專ヲナシ或ハ之ヲ許認スルノ權書又ハ代言  
ヲ任ズル狀ヲ偽造スル者ハ七年ニ及ブ各種ノ入獄  
ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百六十七條 有價ノ保證又ハ遺囑書又ハ義子ヲ  
養フ權狀タルベキ憑書或ハ有價ノ保證ヲ作り又ハ  
讓リ又ハ元金利息及ヒ分利ヲ受取り又ハ金錢動産  
又ハ有價ノ保證ヲ受授ルノ權ヲ與フル所以ノ憑  
書或ハ金錢及ヒ有價ノ保證又ハ動産ノ受領ヲ表ス  
ル憑書ヲ偽造スル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各  
種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百六十八條 偽造ノ憑書ノ詐欺罪ノ目的ニ用ヒ  
ラル、カ爲ニ偽造罪ヲ犯ス者ハ七年ニ及フ各種ノ  
入獄及ヒ贖金ニ處ス

第四百六十九條 人ノ名譽ヲ損スルカ爲メニ或ハ其  
目的ニ用ヒラル、ニ至ルヲ知テ偽造罪ヲ犯ス者ハ  
三年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且ツ贖金ヲ科ス

第四百七十條 全部又ハ一部偽造罪ヲ以テ作りタル  
偽憑書ハ偽造ノ憑書ト云ヘシ

第四百七十一條 不正或ハ詐欺心ヲ以テ自ラ其偽造  
ノ憑書タルヲ知り又ハ信スルノ理由ヲ有シ偽造ノ



憑書ヲ真正トシテ用フル者ハ自ラ之ヲ偽造シタルト同罪

第四百七十四條 其偽造タルヲ知り不正或ハ詐欺心ヲ以テ第四百六十六條ニ記スル所ノ憑書ヲ所持スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス  
第四百六十七條ニ記スル所ノ憑書ヲ所持スル者ハ終身流若クハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百七十五條 第四百六十七條ニ記シタル憑書ヲ証スル所以ノ記號ヲ贋造シ又ハ如此贋造記號ヲ所持シテ偽造シテ偽造ノ憑書ヲ証センヲ圖ル者ハ終身流若クハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス



第四十一 路券并ニ諸免狀等變造偽造ノ罪

○佛蘭西

第四百十九條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

往來手形及ヒ兵士ノ往來手形又ハ獵ノ免狀ヲ贋造

セシ者ノ刑ハ前數條ニ記スル所ト異リテ之ヲ後條

ニ詳カニス

第五百十三條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ贋造セシ者又ハ真正ナル

往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ變造セシ者又ハ其贋造變

造シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒタル者ハ六



月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第百五十四條 〔千八百六十三年五月十三日如左改ム〕  
往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ受クルニ付キ偽名ヲ述ヘシ者又ハ偽名ヲ用ヒ往來手形ヲ受取ル證人ト爲リシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ  
他人ノ姓名ヲ以テ渡シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒシ者モ亦同上ノ刑ニ處セララル可シ  
旅舎ノ主人旅客ノ姓名簿ニ故ラニ旅客ノ偽ノ姓名

ヲ記載セシ時又ハ旅客ト相通シテ其姓名ヲ記載セサル時ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ

第百五十五條 〔千八百六十三年五月十三日如左改ム〕  
官吏其自ラ知ラサル者ニ己レノ知ル所ノ者二人ヲシテ其姓名身分ヲ證セシムルトナク往來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメタル時ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セララル可シ  
官吏偽名タルトヲ知り其偽名ノ儘ニテ往來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメタル時ハ一年ヨリ少カラス四年



ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
又其犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カ  
ラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタ  
ル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ

第百五十六條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

兵士ノ往來手形ヲ贋造シ又ハ眞正ナル兵士ノ往來  
手形ヲ變造シ又ハ贋造變造シタル兵士ノ往來手形  
ヲ用ヒタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其贋造或ハ變造ノ往來手形ヲ以テ偽テ官署  
ノ監察ヲ免ル、ノ目的ノミナル時ハ六月ヨリ少

カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラル可シ

若シ其贋造或ハ變造ノ往來手形ヲ所有スル者官  
ノ會計局ヨリ當然得可ラサル旅費ヲ受ケ又ハ當  
然ニ得可キ高ニ過タル旅費ヲ受ケタル時ハ一年  
ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑  
ニ處セラル可シ但シ其不當ニ得タル金高百「フ  
ラ」以下ナル時ニ限ル可シ

若シ其往來手形ニ付キ不當ニ得タル所ノ高百「フ  
ラ」以上ナル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ



多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
終ノ二箇ノ場合ニ於テハ犯人ノ其刑ニ處セラレ  
シ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル  
時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スル丁ヲ  
得可シ

又其犯人ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ五年ヨリ少カラ  
ス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシ  
ムル丁ヲ得可シ

第五十七條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

前條ニ記スル所ノ刑ハ其條ニ記列スル所ノ區別ニ

循ヒ偽名ヲ詭稱シテ兵卒ノ往來手形ヲ官吏ヨリ受  
取リシ者及ヒ他人ノ姓名ヲ記シテ渡シタル兵卒ノ  
往來手形ヲ用ヒシ者ニモ亦通シテ用フ可シ

第五十八條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

若シ官吏偽名ヲ詭稱セシ丁ヲ知リ故ラニ兵卒ノ往  
來手形ヲ渡シタル時ハ左ノ刑ヲ受ク可シ

第五十六條ノ第一ノ場合ニ於テハ一年ヨリ少  
カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
ラル可シ

第五十六條ノ第二ノ場合ニ於テハ二年ヨリ少



カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮之刑ニ處セラル可シ

第一百五十六條ノ第三ノ場合ニ於テハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

又第一百五十六條ノ第一第二ノ場合ニ於テハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルヲ得可シ

○白耳義

第一百九十八條 凡旅券佩兵免狀冊子職人ノ生國姓名等ヲ記シ製造場ノ出入巡行等ニ用フル冊子ヲ偽造若クハ變造スル者或ハ其偽造物ヲ用フル者ハ一月ヨリ一年迄ノ獄ニ處ス可シ

第一百九十九條 凡旅券佩兵免狀冊子ヲ得ント要シ姓名ヲ偽ル者及ヒ其證據人トナル者ハ八日ヨリ六月迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百條 凡兵役路券ヲ製作シ偽造變造スル者及ヒ此等ノ路券ヲ用フル者ハ一月ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ



第二百一條 凡兵役路券ヲ得ルニ姓名ヲ偽リ或ハ其身分ヲ偽ル者ハ八日ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百二條 凡旅券佩兵免狀冊子兵役路券ヲ請フ者

ニ其請ヲ爲ス者ヲ識ル證據人二名ヲ要セスシテ與

フル者ハ二十六「フランク」ヨリ二百「フランク」迄ノ罰

金ヲ命ス可シ

若シ其偽タルヲ知テ以上諸券ヲ與フル官吏ハ六月

ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ

若シ以上ノ諸券ヲ與フルニ賄賂ヲ受ケ若クハ受ク

可キヲ約スル官吏ハ一年ヨリ五年迄ノ獄ニ處ス可

シ

以上二段ニ於テハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權

ニ處スル丁アリ

○埃及

第一百八十九條 何人ニ限ラス往來切手又ハ路票ニ偽

名ヲ記セシメシ者又ハ偽名ヲ用ヒ往來切手又ハ路

票ヲ得ル爲メ故ラニ保證人トナリシ者ハ六月ヨリ

少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ

ラル可シ



第百九十條 何人ニ限ラス往來切手或ハ路票ヲ贋造シタル者又ハ原來真正ナル此類ノ證書ヲ變造シタル者又ハ其贋造或ハ變造ノ往來切手或ハ路票ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十二條 官吏若シ規則ニ循ヒ當然ノ保證ヲ要セス往來切手ヲ渡シタル時ハ六月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且其職ヲ退ケラル可シ

官吏若シ本人ノ姓名ノ偽リヲ知り其偽名ヲ記シタル往來切手ヲ渡セシ時ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○澳地利

第三百二十條

(ホ) 届書ニ偽名ヲ記シ或ハ族籍職業及ヒ其他ノ事件ヲ偽リ或ハ凡官廳區署警保署へ對シ(刑事裁判所糺彈中ニ係ルノ外若シ斯ニ於テ然ル片ハ別ニ成法上ノ條例有リ)姓名產地爾他凡身上ニ係ル事件ヲ偽リ官ノ監督ヲ誤ラシメ得ル者但シ然ル場



合ニ於テ府廳ヨリ下附セラレタル旅行狀或ハ他  
ノ證書中ニ不正ノ所業ヲ爲セシカ或ハ唯廳署ニ  
於テ糺問ノ間偽事ヲ告ルノ別ナク齊シク皆違式  
ニ屬ス

第四十二 官職及ヒ稱號ヲ僭スル罪

○佛蘭西

第二百五十八條 其官ニ居ラスシテ文武ノ公務ニ干  
涉シ又ハ其公務ニ管スル所行ヲ爲シタル者ハ二年  
ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ  
處セラル可シ但シ此規則ト官職ヲ僭スル犯罪ニ贋  
造ノ情狀アル時ハ其罪ニ相當ナル刑ニ處ス可キ規  
則ト相觸ル、丁ナカル可シ

五七八 第二百五十九條 千八百五十八年第五  
月二十八日如左換 已レニ屬セサ  
ル官服禮服又ハ賞牌ヲ公ニ佩用シタル者ハ六月ヨ



リ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處  
セラル可シ

名望ヲ得可キ爲メ正當ノ權利ナクシテ公ニ官ノ爵  
ヲ詭稱シ又ハ身上證書ニ記シタル姓名ヲ變更シタ  
ル者ハ五百フランクヨリ少カラス一萬フランクヨ  
リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

如此官爵ヲ詭稱シ又ハ姓名ヲ變更シタル公正ノ證  
書或ハ身上證書ノ端ニ裁判所ノ言渡ヲ附記ス可シ  
此條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ其  
言渡ノ全文又ハ其拔書ヲ別段指定メタル新聞紙ニ

登記スルトヲ言渡スヲ得可シ但シ其費用ハ犯人  
之ヲ擔當ス可シ

○白耳義

第二百二十七條 凡内外文武官職ヲ僭稱スル者ハ一  
月ヨリ二年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百二十八條 凡其官若クハ爵ニ在ラスシテ公ケ  
ニ官服制服ヲ着シ或ハ賞牌及ヒ諸權ノ票記ヲ佩ル  
者ハ二百フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命  
ス可シ



第二百二十九條 凡白國人ニシテ公ケニ外國ノ賞牌  
票記ヲ佩ル其國主ノ允許ニ非サル者ハ五十フラン  
クヨリ五百フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第二百三十條 凡其位ニ在ラスシテ公ケニ賞號ヲ稱  
スル者ハ二百フランクヨリ一千フランク迄ノ罰金  
ヲ命ス可シ

第二百三十一條 凡公ケニ他人ノ姓名ヲ冒ス者ハ八  
日ヨリ三月迄ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百  
フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ若クハ唯此一刑ニ處  
ス可シ

第二百三十二條 凡官吏公事ノ文書ニ人ノ姓名貴號  
ヲ記シ其偽ナルヲ知テ默過スル者ハ二百フランク  
ヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ命ス可シ

○埃及

第六十二條 何人ニ限ラス其官職ニ居ラス又ハ政  
府ノ許シナクシテ文武ノ職務ニ干涉シ又ハ其職務  
ニ屬スル權ヲ行フタル者ハ三月ヨリ少カラス三年  
ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
若シ其犯人ノ所爲或ハ其差出シタル證書ニ詐偽ヲ



以テ財ヲ奪フノ罪又ハ贋造ノ罪アルト分明ナルニ  
 於テハ其犯人ヲ此等ノ犯罪ニ當レル刑ニ處ス可シ  
 第百六十三條 何人ニ限ラス己レノ着用ス可ラサル  
 官服又ハ禮服ヲ着シタル者ハ三月ヨリ少カラス一  
 年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ  
 第百九十一條 旅舎加非店貸屋貸室ノ主人及ヒ其他  
 總テ旅人ヲ泊セシムル家屋ノ主人其宿泊セシメシ  
 者ノ姓名ヲ故ラ偽テ簿冊ニ記シタル時ハ一月ヨリ  
 少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セ  
 ラル可シ

○印度

第百七十條 官吏ニ非サル者偽テ官吏ト稱シ又ハ偽  
 テ官吏ト稱シテ其職ニ依テ事ヲ爲シ又ハ事ヲ爲サ  
 ント試ムル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金  
 ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ  
 第百七十一條 官吏ニ非サル者人ヲ欺クノ意ヲ以テ  
 或ハ其人ヲ欺クニ至ル可キヲ知テ官人ノ衣服ヲ被  
 リ又ハ其徽章ヲ着クル者ハ三個月ニ止ル各種ノ入  
 獄若クハ贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ兩用シテ之ヲ



罰ス可シ

第四百十六條 人ノ名ヲ冒シ或ハ知リナカラ人ヲ別

人ト稱シ或ハ己又ハ人ヲ以テ別人ヲ扮シテ詐欺ヲ

ナス之ヲ人ノ名色ヲ冒シテ詐欺ヲナスト云フ

(説明) 名色ヲ冒サレタル人實ニ存スルト否ザルト

ヲ問ハス

第四百十九條 人ノ名色ヲ冒シテ詐欺罪ヲ犯ス者ハ

三年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄

贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ

○墾地利

第三百三十三條 凡詐偽ノ罪第百九十九條口號下ノ

如キヲ犯ス可キ意ナシト雖モ妄リニ官吏使員ノ姿

勢ヲ爲シ又ハ妄リニ官服ヲ着シ官吏軍士ノ支装ヲ

爲ス者ハ違式罪トシ三日以上一月以下禁獄ニ處ス

可シ

第三百三十四條 妄リニ内國又ハ外國ノ賞牌或ハ立

勳章ヲ帶用セル者ハ之ヲ違式罪トシ十<sup>上</sup>グルデン以

上<sup>上</sup>百<sup>上</sup>グルデン以下ノ罰金ヲ科ス可シ



第四十三 偽證偽誓ノ罪

○佛蘭西

第三百六十一條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ重罪ノ事ニ付

被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇  
ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役  
スル刑ニ處セララル可シ

然レモ被告人徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヨリ更ニ  
重キ刑ニ處セラレシ時ハ其被告人ニ害ヲ加フ可キ  
爲メ偽證ヲ述ヘシ者被告人ノ受ケタル刑ト同一ノ  
刑ニ處セララル可シ



第三百六十二條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ

輕罪ノ事ニ付

被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ又ハ被告人ヲ曲庇  
ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラス五  
年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十  
「フランク」ヨリ少カラス二千「フランク」ヨリ多カラサ  
ル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
若シ被告人五年以上ノ時間禁錮ノ刑ニ處セラレシ  
時ハ其被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ偽證ヲ述ヘ  
シ者其被告人ノ受ケタル刑ト同一ノ刑ニ處セラル  
可シ

第三百六十三條

千八百六十三年第五  
月十三日如左換フ

民事ニ付偽證

註誤ノ事ニ付被告人ニ對シ害ヲ加フ可キ爲メ又ハ  
被告人ヲ曲庇ス可キ爲メ偽證ヲ述ヘシ者ハ一年ヨ  
リ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處  
セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」  
ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ  
此二箇ノ場合ニ於テ其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ  
シテ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第  
四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上  
ノ期間間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得可シ



ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ其犯人ニハ前條ニ記セシ附加ノ刑ヲ受ケシムルヲ得可シ

第三百六十四條

千八百六十三年五月十三日如左換フ

重罪ノ事ニ付

金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ但シ此規則ト第三百六十一條ノ次項ニ記シタル刑ヲ用フルノ規則ト相觸ル、丁ナカル可シ

輕罪ノ事又ハ民事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

註誤ノ事ニ付キ金銀又ハ其他ノ謝報ヲ受ケ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス二千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ第三百六十二條ニ記シタル附加ノ刑ヲ受ケシムルヲ得可シ



何レノ場合ニ於テモ偽證ヲ述ヘシ者ノ受取リシ品物ハ沒收セララル可シ

第三百六十五條 金銀及ヒ其他ノ謝報ヲ與ヘ又ハ約束ヲ爲シテ偽證ヲ述ヘシメシ者ハ其偽證ヲ述ヘシ者ト同一ノ刑ニ處セララル可シ但シ其刑ノ區別ハ第三百六十一條第三百六十二條第三百六十三條第三百六十四條ニ記スル所ニ循フ可シ

第三百六十六條 千八百六十三年第五月十三日如左換フ 民事ニ付キ誓ヲ爲ス可キノ求メヲ受ケタル者又ハ其求メヲ受ケシ者ヨリ誓ヲ反シ爲ス可キノ求メヲ受ケタル者偽

リノ誓ヲ爲シタル時ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百「フランク」ヨリ少カラス三千「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル民權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルトヲ得可シ



第五百十三條 凡誓辭ヲ乞ハレ又回誓ヲ乞ハレ又官ヨリ誓辭ヲ命シタルニ故ラニ虚偽ノ誓辭ヲ爲シタル者ハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第五百十四條 凡誓辭ヲ爲ス可キ官廳ニ於テ誓辭ヲ爲シテ虚偽ノ監定ヲ故ラニ實ト申立又監定者ノ虚偽ノ監定ヲ故ラニ實ト申立タル者又ハ證據及ヒ監證據及ヒ監定者ノ虚偽ノ申立ナリト故ラニ其誓辭ヲ廢棄セントシタル者ハ前同刑ニ處ス可シ 若シ其虚偽ノ證據又監定者ノ虚偽ノ申立等裁判所

ニ於テ被告人ノ害トナリタル時又之レニ因テ其被告人死刑徒刑其他五年以上ニ至ル實決ノ刑ニ處セラレタル時ハ三年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ 第五百十五條 左ノ件々ニ於テハ誓辭ヲ爲シタルト見做ス可シ

第一 法律上ニ於テ誓辭ノ代リニ或ル正式ニ循ヒ盟約ヲ爲ス可ク聽サレタル教法社ハ其慣習ニヨリ仕來リノ式ニ因テ盟約ヲナシ事ヲ陳述シタル時

第二 原告人及ヒ被告人又ハ監定人トナリ誓辭ヲ



爲シタル者其同一事ニ付其分限ヲ以テ誓辭ヲ爲シタルト盟約シ又凡百ノ事ニ付一度誓辭ヲ爲シタル監定者ニテ誓辭ハ已ニ爲シタルト盟約シテ事ヲ陳述シタル時

第三 官吏職務ニ付誓辭ヲ爲シタルト陳述シ公然ト盟約シタル時

第百五十六條 誓辭ニ代ル盟約誓辭ト盟約トハ神ニ區別ヲ爲ス可キ官廳ニ於テ故ラニ虚偽ノ盟約ヲ爲シ又ハ前文ノ盟約ヲ爲シタルト陳述シ故ラニ虚偽ノ事ヲ申立ル者ハ一月ヨリ三年ニ至ル禁獄ニ處ス

可シ

第百五十七條 若シ證人及ヒ監定人第百五十四條第百五十五條見合

虚偽ノ誓辭ヲ爲シ又之レニ換フ可キ虚偽ノ盟約ヲ爲シタル時ハ處決ス可キ刑ヲ左ノ件々ニ於テハ長期トシテ本刑ノ半又短期トシテハ其四分之一ニ減等スルトヲ得可シ

第一 若シ實ヲ告レハ反テ自己ノ重罪及ヒ輕罪トナリ罪ヲ論セラル可キヲ恐レテ實ヲ告ケサル時

第二 證據等申立ルヲ辭ス可キ權アリテ且其權ヲ告知セラレスシテ人ヲ曲庇スル爲メニ虚偽ノ申



立ヲ爲シタル時凡親族ノ爲メニハ證人トナスルコトヲ得ス又親族タルコトヲ知ラスコトヲ命スルハ辭スルノ權アリ

若シ前條ニ因テ其刑一年ヨリ短カラサル徒刑ニ該レハ第二十一條ニ循ヒ禁獄ニ換フ可シ

第百五十八條 若シ虚偽ノ誓辭ヲ爲シ又誓辭ニ換フ

可キ虚偽ノ盟約ヲ爲シ虚偽ノ證據人等ヲ云フ申立ヲ爲

シタル者未タ其偽誓偽盟發覺シテモ出訴セラレサル

内又其人ニ對シ鞫問ヲ開カサル内又其偽誓偽盟ニ

因テ他人ノ害トナラサル内害トナルトハ其偽誓偽盟ノ爲メ處刑セラレタ

云ル事ヲ偽誓偽盟ヲ爲シタル官廳へ自首シテ之ヲ解

ク時ハ前條ニ因リ其刑ヲ減等スルコトヲ得可シ

第百五十九條 人ヲシテ虚偽ノ誓辭ヲ爲ス可ク決心

セシメント故ラニ企テタル者ハ五年ヨリ長カラサ

ル徒刑ニ處シ又人ヲシテ誓辭ニ換フル虚偽ノ盟約

ヲ爲ス可ク決心セシメント故ラニ企テタル者ハ一

年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第百六十條 人ヲシテ虚偽ノ誓辭ヲ爲サシメント鼓

動シタル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ仍ホ

公權ヲ剝奪シ又人ヲシテ誓辭ニ換フ可キ虚偽ノ盟

約ヲ爲サシメント鼓動シタル者ハ六月ヨリ長カラ



サル禁獄ニ處ス可シ之ヲ犯サントセシ所業モ亦禁獄ニ處ス可シ

第六十一條 第五十七條及ヒ第五十八條ニ舉

ゲタル場合ノ外裁判所ニ於テ偽誓ノ罪ヲ處スル毎ニ必ス公權ヲ剝奪シ又其犯人ハ終身證人及ヒ監定人トナリテ誓辭ヲ爲ストヲ得ス

第五十六條ヨリ第五十九條ニ至ル條々ニ於テハ禁獄ト共ニ公權剝奪スルトヲ得可シ

第六十二條 裁判所ニ於テ裁判官ノ目前ニテ誓辭ヲ爲シ約定シタル保證及ヒ約束ヲ故ラニ背反シタ

ル者ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第六十三條 第五十三條ヨリ第五十六條ニ至ル條々ニ記シタル事ヲ驢忽懈怠ニヨリ犯シタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

其事ニ付未タ出訴セラレサル内又其人ニ對シ未タ詢問ヲ開カサル内又其事ニ因テ他人ノ害トナラサル内官廳ニ自首シテ之ヲ解ク時ハ其罪ヲ免スヘシ

○白耳義

第二百五十五條 凡重罪犯ノ證據人ニシテ偽リヲ申



立ル者ハ其犯人ノ利又ハ害タルヲ論セス監役ニ處ス可シ

第二百十六條 凡偽證ヲ爲シ因テ犯人ヲ禁錮十年以上若クハ懲役ニ處セシムル者ハ十年ヨリ十五年迄ノ懲役ニ處ス可シ

若シ偽證ヲ爲シ因テ死刑ニ致ス者ハ終身懲役トス  
第二百十七條 凡唯裁判所ニ出庭シ事情ヲ陳スルノミニシテ(證據人ニ非ス)偽ヲ證スル者ハ犯人ノ利又ハ害タルヲ論セス第八十條ニ依テ論シ證據人ニ一等ヲ減ス

第二百十八條 凡輕罪犯ノ證據人ニシテ偽リヲ申立ル者ハ本犯ノ利害ヲ論セス六月ヨリ五年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百十九條 凡違警犯罪ノ證據人ニシテ偽リヲ申立ル者ハ本犯ノ利害ヲ論セス三月ヨリ一年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百二十條 凡民事訴訟ノ證據人ニシテ偽リヲ申立ル者ハ二月ヨリ三年迄ノ獄ニ處ス可シ

第二百二十一條 凡原告被告ノ利害ヲ論セス重罪輕罪違警罪民事訴訟等ニ於ル譯官若クハ監定人ニシ



テ偽リヲ申立ル者ハ第二百五條第二百十六條第  
二百十八條第二百十九條及ヒ第二百二十條ニ依テ  
論シ罪證據人ニシテ偽リヲ申立ル者ニ同シ  
若シ重罪件ノ監定人ニシテ誓ヲ爲サス偽リヲ申立  
ル者ハ第二百十七條ノ法ニ處ス可シ

第二百二十二條 凡以上五條ノ犯人ハ本刑ノ外尙ホ

第三十三條ノ奪權ニ處スルトアリ

第二百二十三條 凡證據人若クハ監定人若クハ譯官

ヲ蠱誘シ詐ラシムル者ハ罪蠱誘セラル、者ニ同シ  
即チ第二百十五條ヨリ第二百二十二條迄ノ區別ニ

從フ

第二百二十四條 凡財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ聽シ

偽證ヲ爲ス者ハ本刑ノ外尙ホ五十「フランク」ヨリ三

千「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

其贈テ蠱誘スル者モ本刑ノ外尙ホ五十「フランク」ヨ  
リ三千「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス可シ

第二百二十五條 凡十六歳ニ滿タサル者及ヒ犯人ノ

内外親戚ニシテ誓ヲ爲サス偽證ヲ爲シ其犯人ニ利  
スル者ハ論スル勿レ

第二百二十六條 凡民事訴訟ニ於ル誓約ニ賴テ案斷



ス可キニ際シ其偽誓約ヲ爲ス者ハ六月ヨリ三年迄ノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ一萬「フランク」迄ノ罰金ヲ命シ尙第三十三條ノ奪權ニ處スルイアリ

○埃及

第二百六十條 何人ニ限ラス重罪ノ訴訟ニ付キ其被告人ヲ枉害スル爲メ又ハ之ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ述ヘタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第二百六十一條 若シ重罪ノ被告人其偽證ノ爲メ有期ノ徒刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處セラレタル時ハ其偽

證ヲ述ヘタル犯人之レト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十二條 何人ニ限ラス輕罪又ハ註誤ノ訴訟

ニ付キ其被告人ヲ枉害スル爲メ又ハ之ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ述ヘタル者ハ一月ヨリ少カラス五月ヨ

リ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十三條 民法上ノ事ニ付キ偽證ヲ述ヘタル

者ハ六月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十四條 偽證ヲ述ヘタル者之カ爲メ金高又ハ酬謝ヲ受ケ或ハ約束ヲ爲シタル時ハ其贈遺物又



ハ約束高ニ當レル罰金ヲ言渡サル且其贈遺又ハ約束ヲ爲シタル者並ニ之ヲ受ケタル者ハ共ニ同ク納賄ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十五條 脅迫ヲ以テ人ノ眞正ナル證ヲ述ルヲ妨ケ又ハ強制ヲ以テ偽證ヲ述ヘシメタル者ハ其罪ノ輕重ニ準シ偽證ノ罪ヲ犯セシ者ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第二百六十六條 民法上ノ事ニ付キ誓ヲ爲ス可キノ求メヲ受ケ又ハ誓ヲ返シ爲ス可キノ求メヲ受ケ偽誓ヲ爲シタル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

○英吉利

凡經典ニ口吻シ盟詞ヲ爲シテ人ノ確證ヲ告ルニ其實事ヲ言ハサル者ハ輕罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ若シ其餘ノ官司ニ盟詞ヲ爲シ事ヲ告ルニ實ヲ以テセサル者モ罪亦同シ

若シ人ヲ教唆シテ盟ヲ爲サシメ實ヲ告ケサラシムル者モ罪亦同シ



○普魯士千八百五十一年刑四月十四日法第

第一百二十五條 凡請求セラレ又ハ強求セラレ又ハ義務ノ誓ヲ情ヲ知テ偽リ結ヒタル者ハ十年ヨリ多カラサル徒刑ヲ科ス

第一百二十六條 民事刑事ヲ問ハス總テ保證人ト爲リ情ヲ知リナカラ誓ニ因テ偽證ヲ固定シ及ヒ糾明ノ前契約セシ誓ニ偽證ヲ爲シ爾后自ラ其誓ノ破毀ヲ需ル者ハ徒刑十年以下ヲ以テ論ス  
刑事ニ於テ偽證ヲ爲シ因テ被告人ノ患害ヲ致シ遂

ニ死刑或ハ五年以上ノ城砦禁ヲ科セラレ、トアル  
片ハ該者ヲ十年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一百二十七條 (民事又ハ刑事ニ於テ鑑定人ノ偽誓處分ヲ記載セリ今之ヲ除ク)

第一百二十九條 官吏ニ對シ誓ニ代フ可キ保證ヲ故ラニ偽リ爲シタル者ハ三箇月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル禁獄ヲ科シ且有期民權剝奪ノ刑ヲ言渡ス

第一百三十條 凡緊要ノ件ニ於テ情ヲ知リナカラ他



人ヲシテ誓ヲ爲サシメ或ハ虚事ヲ誓ニ因テ固定セシメ或ハ保證人ノ結誓ニ由テ虚事ヲ告白セシムル等ノ誑惑ヲ謀リタル者ハ五年以下ノ徒刑ヲ科ス  
 他人ニ對シテ誓ニ代フ可キ保證第九條ヲ見ヨヲ爲サシメント欲シ情ヲ知リナカラ勉テ誑惑ヲ謀リタル者ハ一年以下ノ禁獄ニ處シ且有期民權剝奪ノ刑ヲ言渡ス

第一百三十一條 裁判官ノ前ニ於テ誓ヲ以テ固定セシ保證ニ依リ約諾シタル請負又ハ公表ス可キ誓ニ契約セシ保證ニ違反シタル者ハ二年以下ノ禁獄ニ

處ス

第一百三十二條 怠慢ヨリ自己若クハ他人ノ緊要ナル件ニ或ル虚事ヲ誓ニ依リ固定シタル者又ハ誓ノ代リニ誠實ナラサル保證ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁獄ヲ科ス  
 犯者ニ對シテ告訴ヲ爲シ或ハ吟味ヲ爲スノ前又ハ之カ爲メ他ニ枉害ヲ生セサル前ニ其偽證ヲ爲シタル所ノ官吏ニ向テ自首ヲ爲ス者ハ之ヲ罪ニ坐セス

○薩克索 十一月十八日ノ改正刑法



二一九 第二百二十一條 (偽誓)

凡官吏ノ目前ニ於テ自己或ハ他人ヲ論セス緊要ナル事件ニ就テ成實ナラサルヲ確知シナカラ其偽證ニ誓ヲ爲シタル者ハ偽誓律ヲ以テ論シ二年以下ノ工役刑若クハ徒刑ヲ科ス若シ不正ナル證據ヨリ他人ノ冤枉ヲ擡起スル時ハ八月ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル工役刑或ハ四年以下ノ徒刑ヲ科ス此條ニ説ケル所ノ證據ノ趣意中ニハ鑑定人ノ申立モ亦之ヲ含蓄ス  
誓ニ因リ固定シタルモノ又ハ其誓尋常奉職ノ盟或

ハ義務ノ盟ナリ且以前ニ取結タル誓ニ關係シテ約諾スル所ノモノハ誓ヲ以テ爲シタル證據ト見做ス可シ

第二百二十二條 (罪科ヲ重大ニスルノ理由)

自己或ハ他人ノ爲メ妄ニ財産ノ利益ヲ計リ其目的ニ依テ偽誓ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ工役刑ニ處ス可ラス其罪科ハ注目セシ利得或ハ已ニ獲タル利益ノ大小ニ隨ヒ六年以下ノ徒刑ニ處ス可キナリ

三一九 第二百二十六條 (偽誓ノ副刑)

偽誓若クハ既行未成若クハ創意ノ爲メ其犯者ヲ處



分スルニ當テハ法律上其副刑トシテ誓詞上ニ關スル證據ヲ爲スノ權ヲ禁シ而シテ其理由ヲ裁斷言渡書ニ記載ス可シ但シ前條及ヒ第二百三十條第二百三十一條ニ掲クル所ノ場合ハ此限ニ非ス

第二百二十七條 (無意ヨリ爲シタル偽誓)

無意ヨリシテ偶偽誓ヲ以テ證據ト爲シタル者ハ第二條百二十一一年以下ノ禁獄ヲ科ス可シ若シ其處罪六週間ニ上ラサル場合ニ於テハ之ニ代ルニ一百五十「ターレ」以下ノ罰金ヲ以テスルヲアリ

第二百二十八條 (誓ノ代リニ爲シタル保證)

法律ニ照準シ誓ノ代リニ爲シタル保證又ハ己レカ奉スル所ノ宗旨及ヒ其宗法ニ從ヒ誓ニ代ヘテ確然タル證據トス可キ其徒ノ保管規則等ハ眞ノ誓詞ト同視ス可シ

第二百三十一條 (自首)

不正ノ誓ヲ以テ證シ或ハ誓ヲ用ヒス單ニ證ヲ用ヒ爾後其本心ヨリシテ被告人ニ對シ之カ爲メ枉害ヲ醸成セサル前ニ其偽證ヲ自首シタル者ハ第四十二條一項ニ照シ處分ス可キ既行未成ノ律ニ同キ者ト見做ス可シ



又糺問ノ際ニ當リ刑事裁判官ノ目前ニ於テ一旦不正ノ證據ヲ爲シタルモ其糺問ノ未タ終ラサルニ先  
タチ自首ヲ爲シタル者ハ罪ニ坐セス

○挨塞 一千八百四十年九月十七日ノ刑法

第二百三十三條 證據人原告人鑑定人被告人全權者  
後見人等トシテ裁判官或ハ他ノ官吏ノ前ニ於テ偽  
誓タルヲ知リナカラ契約ヲ爲シタル者ハ偽誓律ヲ  
以テ論ス  
但シ不注意ヨリシテ偽誓ヲ爲シタル者ニ對シ處分

スルノ方法ハ挨塞法律書中ニ其決定ヲ登記セス  
第二百三十四條 民事訴訟ニ於テ評價ノ誓ハ詐偽ノ  
爲メ之ヲ吟味スルナシ

第二百三十五條 偽誓ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ  
多カラサル徒場驅役ノ刑ニ處シ或ハ五年以下ノ徒  
刑ヲ科ス

偽誓ヲ酌量スルニ當テ裁判官ハ之カ爲メ生シタル  
破律ノ大小ニ就テ亦注意スルナラ要ス  
本條及ヒ後條ノ爲メ徒場驅役ノ刑ニ處ス可キ場合  
ニ於テハ徒刑第二編ノ掲載次叙ニ準ス可シ其他偽



誓ノ爲メ法ニ依テ處分ヲ受ケシ者ハ鑑定人ノ任ニ擔當シ遺囑ノ保證人トナリ及ヒ裁判所ニ於テ保證ヲ爲ス等ノ丁ヲ禁ス

第二百四十條 官吏ニ就テ偽誓ヲ爲シタル者出訴或ハ開訟ノ前及ヒ偽誓ノ爲メ未タ損害ヲ生セサルニ際シ其偽誓ヲ自首スル時或ハ既ニ被ラシメタル損害ヲ裁判官ノ命セシ期限内ニ全ク收贖セシ時ハ第二百三十五條ニ掲ケタル成規ノ處刑ニ代ヘ一年以下ナル徒場驅役ノ刑ヲ科ス

第二百四十一條 誓ニ代ル所ノ手契約互ニ手ヲ執リ契約保證スルヲ云

ニ偽證ヲ爲シタル者又ハ已ニ裁判官ノ目前ニ於テ自ラ其偽誓タルヲ啓告セシト雖モ黨與若クハ對手ノ誘唆ニ因テ之ヲ破約シ能ハサル者ハ二年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ヲ科ス

第二百四十二條 或ル定常ノ所行ニシテ其創意又ハ歸結ニ關シタル義務ヲ盡サン爲メ裁判官若クハ他ノ官吏ノ前ニ於テ誓ヲ結ヒ其誓ヲ以テ固定シタル證據ヲ故ラニ破却シタル者ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ヲ科セラル可シ



〇丟靈厄斯的丁一千八百九十九年ノ刑法

第一百七十二條 自己或ハ他人ニ管スル緊要ナル事  
件ニ就テ官吏ノ前ニ詐偽ノ告白ヲ爲シ而シテ其詐  
偽タルヲ知リナカラ誓ニ依リ又ハ己ニ契約セシ誓  
ニ拘ツテ(一般ノ奉職ニ關スル誓ナレバ)右ノ告白ヲ  
固定スル者ハ六個月ヨリ少カラサル工役刑以上或  
ハ六年ヨリ多カラサル徒刑以下ヲ以テ論ス

第一百七十五條 偽誓ノ罪ヲ犯セシ後其本心ヨリシ  
テ告白ノ詐偽ナルトヲ自首シ及ヒ之カ爲メ未タ對  
手ノ損害ヲ醸成セサル前ニ其事由ヲ自首スル者ハ

六個月以下ノ工役刑ニ處セララル可シ

第一百七十六條 或ル宗教徒ノ誓ニ代ヘ互ニ信任ス  
ルノ保證ヲ其徒之ヲ偽誓ノ罪ナリト爲ス并ハ裁判  
官亦之ヲ誓ト同視ス可シ  
誓ニ代フル所ノ保證亦誓ト同視ス云々(障礙アルヲ  
以テ本項ヲ除ク)

第一百七十七條 思慮ヲ盡サス智力ヲ用ヒス因テ偽  
誓或ハ之ニ類セル告白第六條ヲ見ヨ官吏ノ前ニ爲  
シタル者ハ一年以下ノ禁獄ヲ科ス

告白ヲ爲セシヨリ二十四時間以内ニ其詐偽ナルト



ヲ自首スル者ハ總テ其罪科ヲ原諒ス又第一百七十五條ノ定解ニ從ヒ其自首ヲ遲滯シタル者ハ之ヲ輕減シテ六週間以下ノ禁獄ニ處シ或ハ其レニ適スル罰金ヲ課ス

第一百七十八條 凡官吏ノ前ニ於テ或ハ發起シ或ハ廢止スルノ事件ヲ誓詞若クハ之ニ類セル保證ヲ以テ確定シ然ル後故意ヨリ其義務ヲ連續セサル者ハ之ヲ一年以下ノ禁獄ニ處ス可シ

○痾爾典不爾厄 第一千八百五十八年 七月三日 刑法

第一百十九條 情ヲ知テ偽誓ヲ爲シタル者ハ之ヲ十年以下ノ禁獄ニ處シ且誓ヲ以テ保證ヲ爲スノ權ヲ剝奪ス

第一百二十條

其一 民事又ハ刑事ヲ論セス其保證人ト爲リ情ヲ知テ其偽證ヲ誓ニ依リ固定セシムル者若クハ審訊ノ前ニ其契約シタル誓ヲ故意ニ因リ偽證ヲ以テ破毀シタル者ハ之ヲ十年以下ノ禁獄ニ處シ且誓ヲ爲シテ保證スルノ權ヲ剝奪ス

其二 刑事ニ於テ偽證ヲ爲シ被告人ニ罪害ヲ及ホ



シ遂ニ徒刑又ハ五年ヨリ多キ禁錮ノ刑ニ處セラ  
ル、丁ヲ致ス者ハ十年乃至二十年ノ徒刑ニ坐シ  
且誓ヲ以テ保證ヲ爲スノ權ヲ剝奪セララル可シ

第一百二十一條〔鑑定人ノ偽誓〕

第一百二十三條〔誓ニ代フ可キ保證ヲ偽リ爲ス丁〕

第一百二十四條

其一 他人ノ事件ニ就キ偽誓ヲ爲サシメ又ハ虚事  
ヲ誓ニ依テ固定セント或ハ保證人ノ偽誓ニ因テ  
虚事ヲ告白スル爲メ情ヲ知テ他人ヲ誑誘セント  
欲スル者ハ二年以上ノ禁獄且五年以下ノ民權剝

奪ニ處セララル可シ

其二 他人ニ對シ誓ニ代フ可キ保證ノ詐僞ナル丁

第一百二十  
三條ヲ見ヨヲ知リナカラ之ヲ誑惑スル爲メニ勞

力シタル者ハ一年以内ノ禁獄且民權剝奪ノ刑ニ  
處ス可シ

第一百二十五條

其一 怠慢ヨリ自己或ハ他人ノ事件ニ於テ或ル不

正ノ丁ヲ誓詞ニ依テ固定シ又ハ誓ニ代ヘテ不正

ノ保證ヲ爲シタル者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄

ニ處セララル可シ



其二 犯者若シ上訴セラレ或ハ吟味セラル、ノ前  
及ヒ之カ爲メ未タ被告人ノ枉害ヲ成サ、ル前ニ  
於テ其不正ナル保證ヲ約セシ官吏ニ對シ自首ヲ  
爲ス片ハ無罪ナリト爲ス

○不拉尼斯襪意厄 一千八百四十年第七月十日ノ刑法

第一百三十五條 (偽誓)

不正ヲ證スル爲メノ誓ニ關預スル官吏ノ目前ニ於  
テ詐偽ノ告白ヲ誓ニ依リ固定シタル者ハ次項ニ照  
シテ之ヲ處刑ス可シ

- 一項 或ハ無罪ノ者ヲ罰ニ置ントシ或ハ有罪ノ者  
ヲ其犯セシ罪ヨリ更ニ重キ罰ニ陷擠セントシテ  
訟庭ヲ開キタル者ハ之ヲ三年以上ノ徒刑ニ處ス  
又被告人冤枉ニ因テ徒刑ヨリ嚴ナル他ノ刑類ヲ  
偽誓ノ爲メニ全部或ハ一部ヲ履行シタル片ハ即  
チ其最重刑類ヲ以テ論ス
- 二項 民事裁判ニ於テ黨與又ハ保證人或ハ鑑定人  
ノ偽誓ヲ爲シタル片ハ之ニ徒刑ヲ科ス
- 三項 爾餘ノ事件ニ在テハ一年ヨリ少カラサル徒  
場驅役ノ刑ヲ以テ論ス



第一百三十六條 (誓ニ代ヘタル詐偽ノ保證及ヒ偽誓ノ上訴)

裁判所ニ於テ手契若クハ誓ニ代フ可キ保證ニ依リ故意ヲ以テ詐偽ノ申立ヲ固定スル者或ハ裁判所ニ於テ偽誓ヲ爲サント嘗テ言置キシト雖モ其關係者充分ニ誓詞ヲ成シタルヲ以テ遂ニ其事ヲ果サ、ル者ハ一年ヨリ多カラサル徒場驅役ノ刑ヲ以テ論ス

第一百三十七條 (輕卒心ヨリ結ヒタル誓)

熟慮推考穿鑿等ノ至要ナル智力ヲ盡サズ因テ官吏ノ前ニ偽誓ノ告白ヲ爲シタル者ハ一年ヨリ多カラ

サル禁獄ヲ以テ之ニ科ス

第一百三十八條 (違誓)

官吏ノ前ニ於テ法律ニ關セル條約ヲ誓詞或ハ之ニ代フ可キ契約ニ因テ固定シ爾後故意ヲ以テ其條約ニ悖戾シタル者ハ一年ヨリ多カラサル禁獄ヲ科ス

第一百四十二條 (取消申立)

自己ノ爲メ或ハ被告人ノ害ヲ致ス爲メニ爲シタル偽誓ノ告白ヲ已ニ判決申渡シ決行後取消ノ申立ヲ爲シタル者就中直ニ取消ヲ爲シタル者即チ刑ノ決行ヲ申渡セシ場所ヲ未タ被罪者退出セサル中チ又



ハ決行書ヲ掛リ官廳へ渡セシ後二十四時内ニ其取  
消ヲ爲サントシタル者ハ無罪ナリトス

○薩克撒亞爾丁不爾厄 第一千八百四十一年  
五月三日ノ刑法

第一百八十三條 (偽誓)

凡故意ヲ以テ官吏ノ目前ニ自己又ハ他人ニ管セル  
事件ヲ不正ノ誓ニ依テ固定シ或ハ既ニ爲シタル誓  
ノ不正ナルトヲ知テ眞實ナリト做ス者ハ六月以上  
ノ工役刑若クハ二年以下ノ徒刑ヲ以テ論ス  
第三百十一條ヨリ第三百二十六條ニ擧ケタル管係

ヲ除キ官吏ノ職制ニ官吏ノ前ニ誓詞ヲ以テ結ビタ  
ル條約ヲ情ヲ知り破毀シタル者ハ之ヲ二年ヨリ多  
カラサル工役刑ニ處ス

第一百八十四條 無罪者ニ刑ヲ加ヘシメン爲メ又ハ

有罪者ヲ其犯罪ヨリ重キ刑ニ處セン爲メ重罪下吟  
味ノ際偽誓ヲ爲セシ者ハ次項ノ刑ニ處ス可シ

一項 冤枉ニ由テ處セラレシ重罪ノ工役刑以下ノ  
モノナル片ハ二年ヨリ多カラサル徒刑ヲ以テ處  
ス

二項 處セラレシ罪科有期ノ徒刑ナル片ハ四年ヨ



二 少カラス六年ヨリ多カラサル徒刑ヲ以テ論ス  
三 項 處セラルル可キ重罪ノ終身徒刑或ハ死刑ナル  
片ハ七年ヨリ少カラス十二年ヨリ多カラサル徒  
刑ヲ以テ科ス

第一百八十七條 (輕卒心ニ出シ誓詞)

裁判所ニ於テ誓詞ヲ爲スノ際已レノ義務上監察及  
ヒ 勘考ヲ盡サ、ルヨリ不正ノ定見又ハ誓約ノ傷害  
ヲ爲スノ(第一條百八十)罪ヲ犯セシ者ハ三週間ヨリ少  
カラス一年ヨリ多カラサル禁獄ニ處シ或ハ其刑六  
週間以内ノ者ハ相當ノ罰金ヲ科ス可シ

第一百八十八條 偽誓又ハ輕忽心ノ誓詞ヲ爲スノ罪

ヲ犯セシ者若シ已レ發心シテ他人未タ夫ノ誓詞ノ  
爲メ罪害ヲ被ラサル前其不正ノ告白ヲ取消サント  
スル并ハ偽誓ニ在テハ六月間以内工役ノ刑ニ處シ  
又輕忽心ノ誓詞ニ在テハ六週間以内ノ禁獄或ハ相  
當ノ罰金ヲ科ス可シ

○ 昂不爾厄 一千八百六十九年  
四月三十日ノ刑法

第一百十一條 (偽誓)

官廳ノ前ニ於テ不正ヲ知リナカラ定式上ノ誓詞ニ



依リ無實ノ申立及ヒ辨白ヲ固定シタル者ハ次項ニ  
 擧クル所ノ刑ニ處ス可シ但シ此ノ誓詞彼ノ申立又  
 ハ辨白ニ或ハ先シ或ハ後ル、モ敢テ問ハサルナリ  
 一項 刑事裁判ニ於テ無罪者ヲ有罪ニ陷擠スル爲  
 メ又ハ有罪者ヲ其犯シタル罪ヨリ重大ニ做サン  
 爲メ本條ノ所業ヲ爲シタル者ハ三年ヨリ少カラ  
 ス十年ヨリ多カラサル徒刑ニ科ス又冤枉ニテ罪  
 ヲ受ケタル者偽誓ノ爲メ其罪科ヲ全ク履行セシ  
 片ハ十五年以下ノ徒刑ニ處ス  
 二項 民事裁判ニ於テ原被中ノ者證據人又ハ鑑定

人ニシテ偽誓ヲ爲シタルニ於テハ一年ヨリ少カ  
 ラス六年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス  
 三項 他ノ場合ニ於テハ五年以下ノ徒刑ニ處ス  
 總テ上項ノ各場合ニ在テハ必ス民權剝奪ヲ併科ス  
 可シ  
 第一百十二條 (誓ニ代ヘタル詐偽ノ保證)  
 官吏ノ前ニ於テ情ヲ知り誓ニ代フ可キ手契又ハ保  
 證ニ依リ不正ノ告白ヲ固定シタル者ハ一月間ヨリ  
 少カラス十八月ヨリ多カラサル禁獄ニ處セラレ且  
 有期ノ民權剝奪ヲ受ク可シ



第一百十三條 (輕卒心ヨリ結ヒタル誓詞)

熟慮推考穿鑿等ノ智力ヲ盡サ、ルヨリ官吏ノ前ニ不正ナル誓詞ヲ以テ告白ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁獄ヲ以テ論ス若シ犯者ノ上訴セラレサル前及ヒ吟味セラレサル前又ハ之カ爲メ未タ被告人ノ罪害ヲ現成セサルニ當テ其告白ヲ爲シタル官吏ニ對シテ其不正ナル丁ヲ自首シタル片ハ之ヲ無罪ナリトス

第一百十四條 (違誓)

官吏ノ前ニ於テ誓詞或ハ誓詞ノ代リニ爲シタル手契或ハ已ニ結ヒタル誓詞ニ因テ或ル條約ヲ固定シ爾后故意ヲ以テ其條約ニ違戾スル者ハ之ヲ二年以下ノ禁獄ニ處ス

○巴威也拉 一千八百六十一年十一月十日ノ刑法

第一百九十二條 官廳ヨリ要請セラレシ誓詞ヲ爲シ

之ニ因テ其誓ニ或ハ先シ或ハ後ル、無根ノ辨白ヲ知リツ、之ヲ固定シタル者ハ偽誓ト做シ八年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス可シ  
若シ刑事ニ於テ被告人ニ罪害ヲ冒ラシムル爲メ偽



誓ヲ以テ保證シ而シテ其人死刑又ハ八年以上ノ徒  
刑ヲ言渡サル、片ハ該罰ヲ二十年間ノ徒刑ニ及ホ  
ストヲ得可シ  
偽誓ニ因テ定法ノ罪ヲ言渡サレタル者ハ保證人又  
ハ鑑定人トシテ官吏ノ前ニ誓詞ヲ爲スノ權ヲ剝奪  
セラル

第一百九十五條 偽誓ノ爲メ刑法ヲ以テ裁斷ス可ラ  
サル者アリ即チ左ニ掲ク  
其一 或ル事件ニ於テ一モ隱蔽スル丁ナキヲ瞭然  
吐露スル誓價直ヲ品定スル誓自ラ信任スル丁ヲ

契約スル誓安全ノ誓即チ誓ヲ爲ス可キ者之ヲ契  
約スルノ前其對手ヨリ要求シタル危難ノ生セサ  
ルニ際シテ爲ス所ノ誓等は是ナリ

第一百九十六條 刑事ニ於テ保證人或ハ鑑定人トシ  
テ被告人ヲ惠赦シ或ハ被告人ニ罪害ヲ冒ラシムル  
爲メ不正ノ誓詞ヲ以テ告白シタル者若シ之カ爲メ  
未タ裁決又ハ終審ニ着手セラレサル前其告白ノ却  
廻ヲ請フタル片ハ之ヲ無罪ナリトス又其却廻ヲ請  
フタル時日ニ至ルノ際已ニ偽誓ノ爲メ拘留セラル  
、歟或ハ吟味ヲ受ケシ歟或ハ正ニ吟味ノ設備ニ至



ラシ者モ前ト同ク無罪ニ属ス  
 第二百九十七條 官吏ノ前ニ於テ誓ニ代フ可キ手契  
 ニ依リ故意ヲ以テ不正ノ事件ニ保證シタル者ハ之  
 ラ二年以下ノ禁獄ニ處ス若シ刑事ニ於テ其告白被  
 告人ノ枉害ト爲リタル片ハ六月以上ノ禁獄ヲ以テ  
 科ス可シトス

〇瓦爾敦巴爾厄 第一千八百三十九年  
 第三月一日ノ刑法

第二百二十七條 官吏ノ前ニ於テ情ヲ知り偽誓ヲ以  
 テ保證スル者或ハ民事裁判ニ付キ裁判官ノ前ニ自

ラ望ンテ契約シタル誓或ハ己ムヲ得ス契約シタル  
 誓ヲ故ラニ偽リ爲ス者ハ偽誓律ニ依リ八月以上ノ  
 工役刑ヲ科ス  
 己ニ結ヒタル誓ニ付テ生シタル保證ヲ處刑スル時  
 ニ當テハ偽誓ト同視ス可キヲ要ス

〇巴敦 一千八百五十四年  
 第三月六日及ヒ一  
 千八百五十一年第二  
 月五日ノ刑法  
 第四百八十四條 (偽誓)

人民一般ノ訴訟裁判ニ於テ契約スル誓又ハ裁判官  
 ヨリ結ハシムル所ノ誓ヲ情ヲ知テ偽リ爲シタル者



ハ偽誓律ニ擬シ一年ヨリ少カラス八年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス

第四百八十六條 (人民ノ訴訟若クハ官府ノ事件ニ管スル詐偽ノ保證及ヒ忠告)

人民ノ訴訟若クハ官府ノ事件ニ於テ保證人又ハ鑑定人ト爲リ情ヲ知テ詐偽ノ保證及ヒ詐偽ノ忠告ヲ爲ス者或ハ故意ヲ以テ此保證忠告ヲ誓ニ依テ固定シタル者亦第四百八十四條ニ記載スル所ノ刑ニ照シ之ヲ處ス可シ

第四百八十七條 (刑事ニ管スル件)

刑事ニ於ルモ次項ノ件ニ係ル者ナレハ第四百八十六條ノ處刑方法ニ準ス可シトス

其一 若シ偽誓ノ爲メ被告人ノ特赦セララル、片ハ一年ヨリ少カラス六年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス可シ又之カ爲メ保證人或ハ鑑定人ニ財物等ヲ與へ或ハ之ヲ約束スル者ハ前刑ノ外ニ二年以下ノ工役刑ヲ加フ

其二 若シ偽誓ノ爲メ被告人ノ罪害ヲ醸成シタル片ハ一年ヨリ少カラス八年ヨリ多カラサル徒刑ニ處ス可シ又之カ爲メ被告人ノ無罪ナル歟或ハ



輕科ノ罪ナル可クシテ死刑ヲ言渡サル、片ハ十年以下ノ徒刑ヲ以テ論ス

第四百九十一條 (無罪ノ件)

制規ニ從テ保證人タルノ許可ヲ得可ラサル件又ハ其保證人自己ニ對シ或ハ本系ノ親屬若クハ枝系二等親或ハ此二親屬ノ夫婦ニ對シ刑事ニ係ル論罪ヲ擔任ス可キ件又ハ其保證人自己或ハ右ノ親戚ヲ公然賤辱スル等ノ件ニ係ル片ハ其保證人親戚ヲ助ケ及ヒ已ヲ救フ心ヨリシテ如此ノ件ヲ傍觀シ又ハ默止スル片之ヲ無罪ニ歸ス可シ

第四百九十二條 (不條理ノ誓ヲ爲シタル者ニ對スル處分)

罪狀申渡ヲ決定スルニ當リ誓ト齟齬ヲ生セシ時又ハ法律上許サレサルモノニ誓ヲ爲シタル時又ハ法律上不條理ナル方法ニ於テ誓ヲ爲シタル時ハ前條ト同ク之ヲ無罪ニ置ク

第五百八條 (誓及保證權ノ剝奪)

第五百二條ノ事件及ヒ詐偽ノ保證又保證人若クハ鑑定人ニ謝物ノ贈與ヲ約セサレ片被告人ヲ特赦セシカ爲メニ與フル所ノ辨告第四百八十七條其ヲ除



キ總テ本編ノ事件ニ於テ處分ヲ爲スニ若シ犯者ノ  
罪徒刑或ハ工役刑ヲ科ス可キ片ハ其處刑ニ因テ誓  
ヲ爲スノ權及ヒ裁判上ニ付キ保證スルノ權ヲ剝奪  
ス

○丁抹 第一千八百六十六年  
刑法

第一百四十五條 或ハ保證ヲ爲シタル後ニ誓ヲ結ヒ  
或ハ已ニ結ヒタル誓ヲ爲メ之カ辨解ヲ爲スヲ間ハ  
ズ總テ裁判官ノ前ニ誓ヲ以テ詐偽ノ保證ヲ爲シタ  
ル保證人ハ二年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラサル

徒場驅役ノ刑ヲ科セラル可シ但シ此處刑ハ偽證ニ  
因テ受ケタル罪害或ハ之カ爲メ適用セラレシ罪害  
ノ景況ニ從ヒ重科ニ處ス可ラサル時ニ於テ行フモ  
ノナリトス若シ保證人悔悟シテ偽證ヲ自首スル片  
ハ徒場驅役ノ最輕科ニ代フルトヲ得可シ而シテ又  
特別寬典ノ事情ヲ以テ水及ヒ麵包ヲ給スル禁獄ノ  
刑ニ處スルトアリ然レモ其時間ヲ二十日ヨリ下ス  
可ラサルナリ

第一百五十條 黨與ヲ結ヒ裁判官ノ前ニ於テ其保證  
ヲ偽誓ニ依リ固定シタル者ハ詐偽ヲ爲シタル保證



人ト同罪タル可シ然レモ如此ノ偽誓ニ因リ其罪ヲ  
特赦セント要スル片ハ之ヲ其景況ニ從ヒ輕減シ或  
ハ改良院工役刑ノ最輕科以下ニ處ス又第一百四十  
五條第二節ニ掲載スル如ク水及ヒ麵包ヲ給スル十  
日以下ノ禁獄ヲ科スルトアリ

○墾地利 一千八百六十七年ノ草案

第一百七十二條 裁判官又ハ勸解人ノ前ニ故意ヲ以  
テ次項ノ所行ヲ犯シタル者ハ偽誓ノ罪ヲ以テ論シ  
一年以上四年以下ノ徒刑ニ處ス可シ

甲 自己ノ爲メニ或ル不正ノ事件ヲ誓フ  
乙 保證人トシテ不正ノ證據或ハ該者ヨリ書面ヲ  
以テ申出タル不正ノ保證或ハ鑑定人トシテ詐偽  
ナル告訴或ハ不正ナル啓告ニ誓フ  
丙 前項ニ類セル告白ヲ一般奉職ノ誓或ハ己ニ爲  
シタル誓ニ牽合シテ固定シタル  
宗教ニ關シ法律ニ從ヒ誓ニ代フ可キ表誠ノ證據ヲ  
爲ス者ニシテ其誓ニ代用スル所ノ保證規式ハ眞ノ  
誓ト同視ス可シ

第一百七十五條 若シ犯者官吏ノ前ニ偽誓或ハ偽證



ヲ爲スニ當リ眞實ノ告白ヲ爲サハ己ノ罪輕罪若クハ重罪ニ科セラル可キヲ知リタル片又ハ法律上其辨解ヲ與フルニ及ハサル權理アルモノニシテ之ヲ他ヨリ指示セラレサル歟或ハ自ラ了知セシ歟ノ分明ナラサル片ハ第一百七十二條及ヒ第一百七十三條ニ登錄セシ犯行ヲ無罪ナリト爲ス

第一百七十六條

他人ヲシテ偽誓

第一百七十條ヲ見ヨヲ爲サ

シメンカ爲メニ盡力シ其人ハ其誓ヲ爲サ、ルモ之ヲ謀リタル者ハ重罪ヲ以テ論シ之ヲ四月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル徒刑ヲ科ス

右ノ如キ所行ヲ偽證ノ裁判ニ於テ裁判官ノ前ニ爲シタル片ハ輕罪ヲ以テ論シ一月ヨリ少カラス四月ヨリ多カラサル禁錮ヲ科ス

○不來梅 一千八百六十八年ノ草案

第七十五條 (偽誓)

第二百五十二項

或ル保證ヲ誠實ト做シ誓ヲ以テ

固定シ爾後裁判官ノ前ニ於テ其不正ナルヲ覺知シカカラ尙ホ之ヲ保證スル者又ハ不正ナル保證或ハ條約ノ不正ナルヲ瞭然ナルニ之ヲ誠實ト



做シ誓ヲ以テ固定シタル者ハ偽誓ノ刑ニ依リ十年以下ノ徒刑ニ處ス

若シ刑事ニ於テ偽誓ヲ以テ保證シ之カ爲メ被告人ヲ罪患ニ致シ其人十年以上ノ徒刑ヲ命セラレ、并ハ犯者ヲ十八年以下ノ徒刑ヲ科ス

右ノ罪患ヨリモ輕淺ナル場合ニ於テハ一年以上ノ禁獄ニ處ス

凡徒刑ニ處セラレシ者ハ保證ノ權ヲ剝奪セラレ禁獄ノ者亦其副刑及ヒ無稅專賣ノ權ヲ剝奪セラレ

第七十六條 (不注意ヨリ爲シタル誓)

第二百五十七項 裁判官ノ前或ハ誓ニ預ル官吏ノ

前ニ於テ確定シタル保證ヲ誠實トシテ誓ヒ爾後之ヲ顧慮スル片ハ自ラ不正ナリトシテ啓告ス可キ或ル不條理ノ件ヲ保證セシ者又ハ不正ナル保證及ヒ條約ヲ思慮ノ定ラサルヨリ誠實トシテ誓ニ因リ固定シタル者裁判官ノ前ニ於テ右ノ誓ヲ爲セシ片ハ一年以下ノ禁獄ニ處シ若シ裁判官ノ前ニ於テセサル片ハ六月以下ノ禁獄ニ處ス可シ且公權無稅專賣等ノ諸權ヲ剝奪シ或ハ其一部ヲ取テ之ヲ命ス



第七十七條 (違誓)

第二百五十八項 之カ委任タル官吏ノ前ニ誓ヲ以テ固定セシ或ル事件ノ保證ニ違フタル者ハ禁獄ヲ以テ科シ且公權無稅專賣等ノ權ヲ剝奪ス或ハ此刑ノ一部ヲ取テ命スルトアリ

第二百五十九項 欠ク

第二百六十項 前條ヨリモ輕淺ナル場合ニ於テハ第二百五十八項第二百五十九項ニ登記スル所ノ處刑ニ代ヘテ罰金ヲ命ス可シ

第八十四條

第二百七十七項 他人ニ偽誓第七十五條ヲ見ヨ爲サシムル爲メ情ヲ知テ蠱誘スル歟或ハ之ヲ決意セシムルニ盡力セシ者又ハ故意ヲ以テ該件ヲ確定シタル者其所爲ハ支障ヲ受ケス意ノ如クナリシモ其之ヲ實施スルニ當リ敢テ着手シ得サル片ハ之ヲ二年以下ノ禁獄ニ處シ且保證ノ權及ヒ其一部且公權ヲ剝奪ス可シ

第九十條 一般ノ誓ニ因リ又ハ官吏ノ求需ニ就テ爲

○丟列支一千八百六十六年ノ草案



シタル誓ニ因リ情ヲ知テ不正ノ保證ヲ固定スル者ハ偽誓ノ罪ヲ以テ論シ工役ノ刑ニ處ス

若シ民事訴訟ニ於テ偽誓ニ依リ固定シタル保證ヲ以テ無辜ノ被告人ニ枉害ヲ冒ラシメ徒刑ヲ言渡サル、如キノ場合ニ至ラシムル片ハ之ニ二十五年以下ノ徒刑ヲ命スルヲ得可シ

第九十一條 不注意ヨリシテ不正ナル保證ヲ官吏ノ前ニ誓ヲ以テ固定シタル者ハ之ヲ禁獄ノ刑ニ處シ兼テ五千フランク以下ノ罰金ヲ課ス可シ  
若シ犯者ニ對シテ呈訴セサル前又ハ吟味ニ着手セ

ラレサル前未タ罪害ノ現成セサルニ際シ不正ノ保證ヲ爲シタル官吏ニ向テ之ヲ啓告シタル片ハ之ヲ無罪ナリトス

○墾地利千八百五十二年五月二十七日布告

第九十九條 第九十七條ノ規則ニ從ヒ詐偽ハ其所業ノ性質ニ從ヒ左ノ場合ニ於テ之ヲ重罪トス

〔イ〕凡自分ノ事ニ於テ訴訟ヲ爲スノ間誓詞ノ贋造ヲ爲サント着手シ又ハ之ヲ爲シ或ハ訴訟ニ用フ可キ偽證ヲ設ケ假令該證中ニ口實トシ辨解ス可



キ事由アリト雖モ之ヲ裁判上ニ使用セシメシ者

〔ハ〕以下畧

第二百四條 偽誓ヲ作り以テ詐偽ノ重罪ヲ犯ス者ハ

第九十九條〔イ〕號下ノ如キ第二百二條及ヒ第二百

三條ニ掲ケタル時間重徒刑ニ處ス可シ然レモ其偽

誓ヲ以テ甚キ巨害ヲ生セシムルニ於テハ二十年加

之其情狀特ニ重キニ於テハ終身重徒刑ニ處スルコ

アル可シ

○魯西亞

第二百三十六條 熟慮ノ故意或ハ故意ヲ以テ爲シタ

ル偽誓ニ就テハ族權全部ノ剝奪及ヒ西比利謫所ノ

放流ニ處セララル〔第九百四十二條〕

第二百三十七條 若シ亦熟慮ノ故意或ハ故意ヲ以テ

被罪人ニ重罪刑ヲ不正ニ蒙ラシム可キ刑事上ノ證

據ヲ確認スルノ偽誓ヲ爲ス片ハ其惡謀ノ偽誓者ハ

證徴セララル、ノ後族權全部ノ剝奪及ヒ八年ヨリ少

カラス十年ヨリ多カラサル時間ノ城寨懲役ニ處セ

ラル

第二百三十八條 若シ偽誓ヲ爲セシ者ハ熟慮ノ故意



アルニアラス只容易ナラサル事情ニ於テ腦亂シ及  
ヒ誓約ノ尊重ナルヲ了知セサルニ由テ其偽誓ヲ爲  
シタルト認知セララル、片ハ身軀及ヒ族位ニ屬シタ  
ル特權全部ノ剝奪及ヒ此刑法第三十一條ノ第四等  
ニ依テ西比利住所ノ放流或ハ懲囚隊内ノ編入ニ處  
セララル

第二百三十九條 若シ亦故意ナク及ヒ腦亂ニ由テ誓  
約ヲ爲スノ用意ヲナシ既ニシテ之ヲ辭スル者ハ裁  
判所ヨリ其所行ノ不戒慎ナルト及ヒ其結局ノ損害  
ヲ生ス可キ事トヲ説諭セララル、ノ後三週間ヨリ少

カラス三箇月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セラ  
ル

第二百四十條 偽誓ヲ爲セシ者若シ此前文第二百三  
十七條ニ確定シタル罰ニ處セラレサル片ハ其同宗  
ナル僧管廳ノ見込ニ由テ寺院ノ懺悔ニ處セララル

○印度

第五十一條 誓詞トハ法律ニ於テ誓詞ニ代フルノ信  
言及ヒ法律ニ於テ公吏ノ面前ニ於テナシ又ハ裁判  
所又ハ其他ノ所ニ證據トシテ用フルヲ要シ及ヒ許



スノ申陳ヲ兼テ云フ

第九十一條 法ニ於テ誓詞又ハ法ノ明文ニ因テ事  
ノ實ヲ陳スルノ責ヲ受ケ或ハ法ニ於テ事ヲ告ルノ  
責アル者其實ナラサルヲ信シ又ハ知テ之ヲ陳告ス  
ル之ヲ偽證ト云フ

說明一 此條ノ陳告ハ文書或ハ誓詞ヲ以テスルニ  
拘ハラス

說明二 證人ノ信用ニ係ル詐偽ノ陳告ハ此條ニ含  
ム而シテ人其信セサル事ヲ信スト陳スルモ其知  
ラサル事ヲ知ルト陳スルモ同ク偽證ノ罪ナリ

第九十二條 事情ヲ設ケ或ハ帳簿記録ニ偽ヲ登記

シ或ハ偽言ヲ載スル文書ヲ作り以テ裁判所又ハ其  
他官吏或ハ私裁人ノ面前ニ之ヲ憑證トナシ以テ緊  
要ナル事ニ付テ其意見ヲ誤ラセント圖ル之ヲ稱シ  
テ偽證ヲ造ルト云フ

第九十三條 故意裁判手續中ニ偽證ヲ申陳シ或ハ  
裁判手續中ニ之ヲ用フルヲ圖テ偽證ヲ造ル者ハ七  
年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處シ若シ裁判手續  
中ニ非スシテ偽證ヲ申陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ハ三  
年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ



説明一 軍事裁判所ノ審問モ裁判手續ナリ

説明二 裁判所ニ於ル手續ニ先チ裁判所外ノ稽查モ裁判手續ノ一段ナリ

説明三 法ニ從ヒ裁判所ノ令スル所ノ稽查ハ縱令裁判所外ニ在ルト雖モ裁判手續ノ一段ナリ

第九十四條 因テ人ヲ死罪ニ斷セラレシメント圖リ又ハ其因テ人ヲ死罪ニ斷セシムルニ至ルヲ知テ偽證ヲ陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ハ終身流又ハ十年ニ止ル加苦役入獄ニ處シ贖金ヲ科ス可シ無辜ノ人死刑ニ判斷處決セララル、片ハ死刑又ハ上ニ記載スル

刑ニ處ス可シ千八百七十年決議第二十七條第二第六第七條ヲ見ヨ

第九十五條 人ヲ終身流若クハ七年以上ノ入獄ニ處ス可キ罪ニ斷セラレシムルヲ圖リ又ハ其因テ人ヲ其罪ニ斷セシムルニ至ルヲ知テ偽證ヲ陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ハ反坐ス一千八百七十年決議第二十七條第七條ヲ見ヨ

第九十六條 其虛事タルヲ知リ又ハ其偽造タルヲ知リ偽證ヲ實トシ用フル者ハ偽證ヲ陳シ或ハ偽證ヲ造ル者ト同シ



第九十七條 其不實ナルヲ知リ法ニ於テ發給手署

ス可キ憑書或ハ法ニ於テ就テ之ヲ其證トナス可キ

ノ事實ニ係ルノ憑書ヲ發給シ又ハ之ニ手署スル者

ハ偽證ヲ陳スルト同刑ニ處ス可シ

第九十八條 其不實タルヲ知リ不實ノ憑書ヲ實ト

シ用フル者ハ偽證ヲ陳スル者ト同刑ニ處ス可シ

第九十九條 裁判所又ハ其他ノ官吏又ハ凡人法ニ

於テ之ヲ證トシテ承受スルノ責アリ又ハ承受スル

ノ權アルヲ陳言ニ於テ陳告ヲ作り之ヲ用フルノ目

的ニ緊要ナル事ニ係テ其不實ナルヲ知リ不實ヲ言

フ者ハ偽證ヲ陳スルト同刑ニ處ス可シ

第二百條 其緊要ノ事ニ係テ不實ナルヲ知リ不實ヲ

言フノ陳告ヲ用ヒ又ハ用ヒントスル者ハ偽證ヲ陳

スルト同刑ニ處ス可シ

説明 唯其式備ラサルノ故ニ承受ス可ラサルノ陳

告ハ百九十九及ヒ二百條ノ意中ニ在リ

第二百一條 罪ノ行ハレタルヲ知リ又ハ之ヲ信スル

ノ理由ヲ有シ死ヲ以テ罰ス可キ罪犯ヲ蔽庇スルノ

意ヲ以テ犯罪ノ證ヲ顯レサラシメ又ハ犯罪ニ係テ

偽告スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ贖金ヲ



科ス可シ若シ蔽庇スル所ノ犯罪十年ニ止ル各種ノ入獄若クハ終身流ヲ以テ罰ス可キ時ハ三年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ若シ蔽庇スル所ノ罪十年ニ至ラサル入獄ヲ以テ罰ス可キ時ハ其罪ヲ罰ス可キ最永期ノ四分一ニ止リ其罪ヲ罰ス可キ入獄ノ種類若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ一千八百七十年決議第二十、第二條ヲ見ヨ

第三百三條 罪行ハレタルヲ知り又ハ罪行ハレタルヲ信スルノ理由ヲ有シ其罪ニ係テ偽告スル者ハ二年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ入獄贖金ヲ兩用シテ之ヲ罰ス可シ一千八百七十年決議第二十七、第二條ヲ見ヨ

○加利堡爾尼

第一百八條 凡依法的ニ誓ヲ完備ノ審院若クハ官吏若クハ人民ノ面前ニ督課セラレテ眞實ニ立證伸陳作供保證セント約シタル者若シ故ラニ虛偽ノ緊要事件ヲ陳述スル片ハ偽誓罪ト爲ス

第一百十九條 上條ニ所謂ル誓トハ誓代及ヒ其他陳述



ノ正實ヲ保證スル法准的ノ各憑約ヲ總括シテ之ヲ稱スルナリ

第二百十條 就官誓ノ中將來ノ奉職上ニ關スル部分ハ上兩條ノ包含スル所ニ非サルナリ

第二百十一條 督誓行誓ノ晤照法的ニ做過セル者ハ以テ偽誓ノ究述ヲ答辨スルノ口實ト爲ルヲ得ス

第二百十二條 其人物現ニ證語口供憑書ヲ出呈スルニ不充分ナリシ事ハ以テ偽誓ノ究述ヲ答辨スルノ

口實ト爲ルヲ得ス苟モ既ニ證語ヲ發出シ若クハ口供憑書ヲ作爲シタル片ハ則以テ之ヲ究述スルニ

足ルナリ

第二百十三條 其偽証ノ爾ク緊要タルヲ知ラサリシ事若クハ其偽証ノ現ニ行爲ヲ變動セサリシ事ハ

以テ偽誓ノ究述ヲ答辨スルノ口實ト爲ルヲ得ス苟モ既ニ緊要ト爲リタル片若クハ行爲ヲ變動シタ

ルヲ知ル可ラサル片ハ則以テ之ヲ究述スルニ足ルナリ

第二百十四條 所謂口供若クハ憑書ヲ作爲スルトハ此章ノ例ニ於テ必ス其口供若クハ誓書ノ露出頒行

セントヲ企欲シテ之ヲ人ニ出付シタル者ヲ言フナ



リ案スルニ設令ヒ之ヲ作為スルモ未ダ出シテ之ヲ  
人ニ交付セサル者ハ以テ虛偽ノ口供憑書ヲ作為  
爲サス

第二百五條 其實然ヲ知ラスシテ說是之ヲ陳  
述スル者ハ其虛偽ナルヲ知テ之ヲ陳述スル者ニ同  
シ

第二十六條 偽誓罪ヲ犯ス者ハ一年以上十四年以  
下ノ禁固ヲ科ス

第二十七條 凡故ラニ人ノ偽誓ヲ發作スル者ハ發  
作偽誓罪ト爲ス其刑ハ躬親カラ偽誓スル者ニ同シ  
第二十八條 凡有意的ノ偽誓若クハ發作偽誓ヲ以

テ無罪者ヲ死ニ致ス者ハ死刑ヲ科ス

第三十二條 凡審問行爲查訊訪察等ノ時ニ書籍文  
書簿册若クハ其他ノ諸文案ノ偽作セラレ若クハ偽  
變セラレタルヲ知リナカラ實正トナシテ之ヲ呈  
スル者ハ大罪ヲ以テ論ス

第三十三條 凡審問行爲查訊訪察等ノ證人若クハ  
喚徴セラレテ將ニ證人タラントスル者ノ立證ヲ變  
動セント欲シテ詐欺ヲ行ヒ若クハ詐偽ノ證徴文案  
陳說紀事ヲ作為頒行シテ之ニ示ス者ハ小罪ヲ以テ  
論ス



第三百三十四條 凡詐欺ヲ以テ聽斷ヲ誤ラシメントテ  
圖リ詐偽ノ書籍簿冊文書若クハ其他ノ物件ヲ設爲  
シテ之ヲ審問行爲査訊等ニ出シ若クハ之ヲ出スニ  
致サント欲スル者ハ大罪ヲ以テ論ス

第四十四 讒訴誣告ノ罪

○佛蘭西

第三百七十三條 裁判官吏又ハ行法警察官又ハ司法  
警察官ニ一人又ハ數人ヲ讒訴スル書面ヲ出セシ者  
ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮  
ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス三千フ  
ランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百七十六條 第三百七十三條ニ記シタル如ク重  
劇ニシテ且公ケナラサル誣罔ハ註誤ノ刑ノミヲ以  
テ罰セラル可シ



○獨逸

第六十四條 告訴ス可キ事ノ虚偽タルヲ知テ人ニ處決ス可キ所業アリ又其職務タル義務ニ背キタル事アリト官廳へ告訴シタル者ハ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ其餘公權ヲ剝奪ス可シ其告訴シタル事ニ付未タ鞫問ヲ終ラサル間ハ虚偽ノ告訴ヲ以テ論ス可ラス

第六十五條 虚偽ノ告訴ニ付處決サレタル時ハ裁判所ヨリ其害ヲ被リタル人原告人ヲ云フニ其犯人被告人ヲ云フ人

ノ費用ヲ以テ其刑名宣告書ヲ公布スルトヲ聽シ其公布ノ方法並ニ其時間等ハ宣告書ヲ以テ定ム可シ宣告書ノ正副本一通ヲ其犯人ノ費用ヲ以テ害ヲ被リタル者ニ渡ス可シ

○埃及

第二百六十七條 公ケノ場所或ハ公ケノ集會場ニ於テ發シタル言詞ニ因リ又ハ印刷シタルト否トヲ問ハス處々ニ貼付シ或ハ分配シタル書面ニ因リ偽テ刑罰ヲ受ケシム可キ事柄ヲ人ニ歸シ又ハ衆庶ノ賤



辱ヲ受ケシム可キ事柄ヲ人ニ歸シ又ハ惡意ヲ以テ國ノ官吏ニ此類ノ事柄ヲ歸シタル者ハ讒訴ノ罪アリト爲ス可シ

平民ニ此類ノ事柄ヲ歸セシ時ハ其事柄ノ有無ノ證ヲ立ルトヲ許サス

第二百六十八條 讒訴ノ罪ヲ犯セシ本人及ヒ其同罪人ハ其讒訴ノ重罪タル可キ事柄ヲ人ニ歸スル時ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル其他ノ類ノ事柄ヲ人ニ歸スル時ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑

ニ處セラル可シ

第二百六十九條 惡意ナク正實ノ意ヲ以テ刑法ニ據リ罰ス可キ事柄ヲ司法官吏ニ告訴シタル者ハ前條ノ刑ヲ適用ス可ラス

第二百七十條 然レモ惡意詐偽ヲ以テ前條ニ記シタル類ノ事柄ヲ偽リ告ケシ時ハ縱令其告訴ノ外ニ公ケニ讒訴スルトナシト雖モ其犯人ヲ刑ニ處ス可シ

第二百七十一條 前ニ記スル所ト同一ノ景狀ニ於テ人ニ歸スルニ一箇ノ事柄ヲ以テセス只特定ノ不善ヲ歸シ又ハ如何ナル法方ヲ問ハス人ノ名譽ヲ害ス



ル誣罔ヲ爲ス者ハ二十四時ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百ピアストルヨリ少カラス三百ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

第二百七十二條 裁判所ニ於テ爲ス所ノ辨論又ハ裁判所へ出シタル書面ニ付キ一方ヨリ相手方ニ過失ヲ歸セシ時ハ前二條ニ記シタル刑ヲ適用ス可ラス只民法上ノ訴訟又ハ裁判席取締ノ爲メノ訴訟ヲ受ケル原由トナル可キノミナラス

第二百七十三條 特定ノ不善ヲ人ニ歸セサル誣罔又ハ公ケニ爲サレル誣罔ノ罪ヲ犯シタル者ハ二十四時ヨリ少カラス一週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十ピアストルヨリ少カラス百ピアストルヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

〇白耳義

第四百四十三條 凡左條ニ錄示スル如ク事ノ定狀ヲ稱シ人ヲ罔ヒ聲譽ヲ失フニ致スニ法律之カ證ヲ爲スヲ許シ其確證無キ者ハ讒告ヲ以テ論シ又法律之カ證ヲ爲スヲ許ス可ラサル者ハ誣罔ヲ以テ論ス可



シ 誣告ニ二種アリ一ハ告ケル所ノ事跡ヲ證スルヲ  
許ス 譬ヘハ貨幣價造ヲ告ケル等總テ狀ヲ具シ證  
スルヲ許ス 是ハナリ 竊婦ヲ告ケル等其夫ニ非サレハ  
之ヲ證スル者ニナリ 許ス  
可ラサル者ニナリ

第四百四十五條 凡左ノ犯者ハ皆十五日ヨリ六月迄

ノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ一千「フランク」迄ノ罰

金ヲ命ス可シ

文書ヲ以テ人ヲ官ニ讒訴スル者

文書ヲ以テ人ヲ其附屬ノ長ニ讒告スル者

第四百四十六條 凡諸會院議院會社等ニ屬スル者ヲ云フ讒告

シ若クハ誣罔スル者ハ人ヲ讒告誣罔スル者ト同罪

トス

第四百四十七條 凡諸官吏及ヒ會院等ヲ其公事公務

ヲ舉テ讒告スル罪ニ坐スル者ハ尋常ノ法ニ依テ其

事ノ確證ヲ立ルヲ許シ又讒告ヲ被ル者モ其事ノ否

ナルヲ證スルヲ許ス可シ

若シ私事ヲ以テ讒告スル者ハ唯裁判及ヒ官ノ處置

ニ依テ證スルヲ得ルノミ他ノ狀ヲ具スルヲ許サス

若シ其讒告スル所官ヨリ搜索ス可ク未タ確證ヲ得

サル事タレハ官ノ裁決ヲ爲ス迄讒告ノ犯ヲ問ハス

第四百四十九條 凡人ヲ誣罔スルニ其實事確證アリ



ト雖モ公私ノ益ヲ目的トシ誣罔スルニ非スシテ唯  
其人ヲ惡ムニ因ル者ハ八日ヨリ二月迄ノ獄ニ處シ  
二十六「フランク」ヨリ四百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス  
可ク或ハ此一刑ヲ科ス可シ

第四百五十二條 凡裁判所ニ於テ原告被告互ニ理ヲ  
争ヒ或ハ詞章ヲ作り或ハ證スルニ文書ヲ以テシ讒  
誣ニ涉ル者ハ律ニ依テ刑ヲ科スルヲ得ス  
然レモ或ハ原被一方ノ願ニ依リ裁判官自ラ其讒誣  
ノ書類ヲ禁シ得可シ  
尚ホ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判官タル者公官及ヒ

代言人ヲ呵叱シ若クハ督責セシメ得可シ

○英吉利

若シ文書ヲ送り人ヲ死罪或ハ七年以上ノ徒罪ニ誣陷  
シ財物ヲ強奪セントスル者ハ五年ヨリ終身ノ徒罪  
ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役隘牢打背罪ヲ加  
フ

若シ人ヲ罪ニ誣ヒ恐嚇シテ證書ヲ破壞變改收受若  
クハ姓名押印ヲ爲サシメ或ハ他人ノ名印ヲ詐爲セ  
シムル者モ罪亦同シ止タ打背罪ヲ除免ス



ト雖モ公私ノ益ヲ目的トシ誣罔スルニ非スシテ唯  
其人ヲ惡ムニ因ル者ハ八日ヨリ二月迄ノ獄ニ處シ  
二十六「フランク」ヨリ四百「フランク」迄ノ罰金ヲ命ス  
可ク或ハ此一刑ヲ科ス可シ

第四百五十二條 凡裁判所ニ於テ原告被告互ニ理ヲ  
爭ヒ或ハ詞章ヲ作り或ハ證スルニ文書ヲ以テシ讒  
誣ニ涉ル者ハ律ニ依テ刑ヲ科スルヲ得ス  
然レモ或ハ原被一方ノ願ニ依リ裁判官自ラ其讒誣  
ノ書類ヲ禁シ得可シ  
尙ホ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判官タル者公官及ヒ

代言人ヲ呵叱シ若クハ督責セシメ得可シ

○英吉利

若シ文書ヲ送り人ヲ死罪或ハ七年以上ノ徒罪ニ誣陷  
シ財物ヲ強奪セントスル者ハ五年ヨリ終身ノ徒罪  
ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役監牢ヲ背罪ヲ加  
フ

若シ人ヲ罪ニ誣ヒ恐嚇シテ證書ヲ破壞變改收受若  
クハ姓名押印ヲ爲サシメ或ハ他人ノ名印ヲ詐爲セ  
シムル者モ罪亦同シ止メ背罪ヲ除免ス



凡他人ノ爭論訴訟ヲ煽動推轂スル者ハ贖罪及ヒ入獄ニ處斷ス

若シ代言人人ノ爲メニ訟事ヲ斡旋シ詐欺シテ實事ヲ告ケス或ハ人ヲシテ實事ヲ告ケサラシメ或ハ人ノ爭訟ヲ煽動スル者ハ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處斷ス

○普魯士千八百五十四年四月

第三百三十三條 某人ノ善良ナルヲ了知シ偽テ律上犯罪ノ所行或ハ職務失錯ノ罪ヲ歸セン爲メ之ヲ裁

判所ニ訴訟シタル者ハ三ヶ月以上ノ禁獄ニ處セラ  
ル可シ或ハ又有期ノ民權剝奪ヲモ申渡サル可シ  
凡訴訟セシニ因リ其事ノ處分ニ關スル間ハ誣告ニ  
就テノ吟味及ヒ其判決ヲ秘隱ス可シ

○薩克索千八百六十八年十一月一日改定ノ刑法

第二百三十六條 讒謗徒刑或ハ重刑ニ處ス可キ重罪  
ニ干涉スル片或ハ又其事假令輕罪ニ干涉スルモ某  
人ヲ糺問ニ處セント欲スルノ目的ニ出ル片ハ前條  
ニ於テ科ス可キ刑ヲ増加シテ二年以下ノ工役ノ刑



ニ處スルヲ得可シ

○挨塞千八百四十年九月十七日ノ刑法

某人ニ對シ糺彈或ハ處刑ヲ醸生センカ爲メニ該人ノ  
善良ナルヲ了知シナカラ偽テ之ヲ裁判所ニ訟ヘ  
犯罪ノ所業ヲ歸セント欲スル者ハ誣告ト爲シ十四  
日以上ノ禁獄ニ處シ或ハ三年以内ノ懲治監ニ處ス  
可シ

其他裁判官ハ誣告ヲ被リシ人ノ申立ニ依リ罪者ニ  
擬決セシ刑ノ裁決ヲ自費ニテ出版シ之ヲ公告ス可

キヲ命シ得可シ

第三百五條 誣告ノ性質ヲ明辨セス亦確實ノ事蹟ト

認定ス可キ原由ヲモ附セスシテ前條中ニ記載シタ  
ル所業ヲ以テ某人ニ歸セントスル者ハ讒謗ト同罪  
ナリトス但シ左ノ事ニ涉リシ者ハ此限ニアラス

第一款 此ノ如キ傳告ハ蓋シ信用ス可キ事實ナル

カ將タ否ラサルカト瞭然ト疑貳ノ辭ヲ以テ某人  
ニ罪ヲ歸セシモノニシテ又其情況ヲ看ルモ尙ホ  
疑貳ノ辭タルヲ確認ス可キモノ

第二款 假令瞭然ナラサルモ其情狀ヲ看レハ疑貳